

全日制義務教育

日语课程标准

日本語課程標準

(実験稿)

中华人民共和国教育部制订
中華人民共和國教育部制定

日本語版発行 : 国際交流基金日本語国際センター
翻訳 : 課程教材研究所
日本語課程教材研究開発センター

はじめに

いま海外の日本語教育は、初中等教育において拡大しつつあります。高等教育とは異なり、年少者に対する日本語および日本に関する基礎教育を担う初中等教育においては、とりわけ、統一性や一貫性のあるシラバスやガイドラインの整備が重要となるのです。すでに本格化している国々においても、さらに充実を図るために、常にシラバスやガイドラインの最新化が行われています。その動向や成果は、これから本格的に取り組もうとする国々にとっては、きわめて重要な参考資料となるのです。国際交流基金のみならず、海外の日本語教育に携る関係者にとっても、それぞれの国や地域での教育指針を知り、的確に対応するうえで貴重な情報となっています。日本語国際センターでは、それら原本を附属図書館に収蔵して関係者に提供してまいりましたが、和訳がなかったため、原語を解する方々のみの利用に限られていました。また、ホームページ上の「国別情報」でも詳細に紹介することができなかつたのです。

その不都合を解消することによって関係者間の相互交流を図り、より一層日本語教育を拡充するための一助として、このたび7カ国（韓国、中国、インドネシア、ニュージーランド、米国*、英国、ドイツ）から9点のシラバス・ガイドラインを選び翻訳刊行（分冊）することといたしました。同時にホームページ上でも公開いたしますので、皆様はお手元で世界の日本語教育のさまざまな取組みの背景や展開を見ることができるのです。ひとくちに日本語教育といいましても、実に多様な目的や目標、方法や手段、そして課題があることがお分かりいただけるものと思います。むろん、今回の対象がすべてではなく、引き続き多様な取組みをご紹介してまいりたいと計画しております。

今回の翻訳刊行は、それぞれの原著作者・機関（別記）のご理解とご協力なしには実現いたしませんでした。日本語教育に携る者同士の共感が実を結んだものと思います。ここに、謹んで謝意を表します。

2002年（平成14年）3月

国際交流基金日本語国際センター
所長 加藤 秀俊

*米国分は、ホームページ上での公開のみ。

日本語翻訳版の刊行にあたって

本書は、中国の『全日制義務教育日語課程標準（実験稿）』（以下『標準』）を日本語に訳したものです。

この『標準』は、中国教育部が、21世紀を迎えるにあたり、基礎（初・中等）教育段階の全教科の教育内容の見直しを図り、シラバスおよび教材の改訂を指示したのを受けて制作されたもので、2001年7月に試行版として出版されました。これは初級中学（日本の中学校にあたる）の日本語のシラバスで、主には初級中学での必修の第1外国語としての日本語教育を想定して執筆されたものですが、小学校や、初級・高級中学校の第2外国語としての日本語教育についても言及されています。

中国の中等教育段階の日本語教育は、1960年代から一部の外国語学校（外国語教育を特色とする中等教育機関）で始まり、1970年代後半には普通中学の必修の第1外国語として採用されるようになり、現在に到っています。

中国でこれまでに出版された中等教育段階の日本語シラバスとしては以下のものがあります。

1982年『中学日語教学綱要』

1986年『全日制中学日語教学大綱』（1990年修訂本）

1988年『九年義務教育全日制初級中学日語教学大綱（初審稿）』

（1992年試用本、1995年試用本改訂版）

1996年『全日制普通高級中学日語教学大綱（供試験用）』（2000年試用修訂版）

* 以上、『20世紀中国中小学課程標準・教学大綱彙編 外国語巻日語』（2001年課程教材研究所所収）

今回の新しい『標準』は、これからの青少年のための外国語教育に対する方針が反映されている点で、これまでのものとは内容が大きく変わっています。具体的には、これまでのシラバスでは「言語知識」と「言語技能」についての記述が中心でしたが、今回は新たに「文化的素養」「感情態度」「学習ストラテジー」という項目が設けられ、最新の外国語教育理論に基づいた記述が随所に見られます。また、「発音」「語彙」「文法」に先立って「話題」「コミュニケーション表現」という項目が設けられ、実際の場面や話題に基づいたコミュニケーション能力の養成を重視する姿勢が強く打ち出されています。さらに、この『標準』では、コミュニケーション能力を養成するための活動例を「教案」として掲載している点も新しい試みです。

現在中国では、この『標準』の内容を反映した新しい初級中学用の教材が国際交流基金等の協力で編纂されていて、2002年9月の新学期から試用される予定です。また、これに続く高級中学用の『標準』の制作も始まっています。今後、中国の中等教育段階の日本語教育は新たな発展が期待されます。

国際交流基金北京事務所
日本語教育アドバイザー
篠崎 撰子

目 次

第一部 前文	1
一、課程の性質	1
二、課程の基本理念	1
三、課程の設計構想	3
第二部 課程目標	5
第三部 内容標準	7
一、言語知識（第三級）	7
二、言語技能（第一級から第三級まで）	7
三、文化的素養（第三級）	9
四、感情態度（第三級）	9
五、学習ストラテジー	10
第四部 実施提言	11
一、授業提言	11
二、評価提言	22
三、リソースの開発と利用	28
四、教材の編纂と使用	30
付 録	32
一、話題項目	32
二、コミュニケーション用語	33
三、音声項目	35
四、語彙項目	37
五、文法項目	72

第一部 前文

国際政治の多様化や、情報化社会の進展・経済活動のグローバル化によって、外国語は世界各国の交流においてますます重要な働きを示すようになった。

1980年代に、日本語は我国の中等教育課程で正式に必修外国語の一つとされるようになった。中学に日本語課程を開設することは、多様な外国語能力を有する人材の需要を満たすだけでなく、中日両国の人々の親善を促進し、特に青少年の間で交流の需要を満たすことでもある。

今回の日本語課程の改革では、生徒のために、ゆとりがあり、活動的で、現実の状況に近い学習環境を形成し、ある話題をめぐってコミュニケーション・タスクを完了させる等の方式による多様なコミュニケーション活動を展開していこうとした。それを通じて、生徒に初歩的な日本語の知識と技能を獲得させるだけでなく、自主的な学習能力と文化的な素養を身につけて成長させ、初歩的な総合言語運用能力を形成させるように努めた。

一、課程の性質

外国語教育は基礎教育段階の必修課程である。義務教育段階で外国語の課程を設置することは、一人一人の生徒がすべて外国語教育を受ける義務と権利を持つことを保証するものである。日本語は必修外国語課程における言語の一つである。

日本語課程は、生徒が教師や同級生との共同活動を通じて、一歩ずつ日本語の知識と技能を身につけて、初歩の日本語によるコミュニケーションを習得するだけでなく、生徒が意志を練磨し、思惟を成長させ、感情態度を陶冶し、視野を広げ、生活体験を豊かにし、個性を伸ばし、人文的な素養を高めていく過程でもある。

日本語課程は生徒のために日本及び世界を直接認識し、理解するための一つの窓口を開くことを可能にするものである。義務教育段階の日本語課程の役割は、生徒の日本語学習に対する興味を呼び起こして育てていき、彼らに自信を与え、有効な学習ストラテジーを形成し、良好な学習習慣を養い、基本的な言語の知識と技能を身につけさせることである。それは生徒の観察力や記憶力・思考力・想像力等の自主的な学習能力と、創造的で協調的な精神を養うものである。またそれは生徒が中日両国の文化的差異を理解し、国際的な視野を開き、愛国精神を育て、健全な人生観を確立することを助けるものである。徐々に初歩的な総合言語運用能力を形成していくことは、生涯を通じての学習と成長のために良好な基礎を築くことである。

二、課程の基本理念

(一) 生徒全体に向けて、資質教育を重視すべきこと

日本語課程は、生徒全員に目を向けて、一人一人の生徒を成長させていく必要がある。特に強調したいのは、生徒の学習への興味を呼び起こし、生徒に基本的な日本語の知識と技能を身につけさせ、同時に感情態度や価値観等の方面も成長させることである。日本語学習においては常に一貫して資質教育を行い、生徒の創造的な精神と実践能力を養わなければならない。

(二) 活動的な教育を提唱し、実際的な使用を奨励すること

日本語課程では、生徒のために、ゆとりがあり、活動的で、現実の状況に近い学習環境を形成し、様々な話題をめぐってコミュニカティブ・タスクを完了させる等の方式による、多様な教育活動を展開させていくように努めなければならない。学習活動においては、生徒が大胆に話すことを奨励し、ただ教室の中だけではなく、課外活動及び、対外的な交流活動においても、積極的に日本語で、表現と交流ができるようにする。

(三) 学習内容を精選し、学習過程を重視すること

日本語課程では、学習内容に学問的体系の完全性を過度に追求したり、抽象的な概念を羅列したりせずに、実際に使用することを重視する。より基礎的で興味深く、社会の現実を反映した、生徒の生活と関係の深い学習内容を精選すべきである。生徒が学習過程において有効な学習ストラテジーを身につけ、観察・模倣・体験・探求の過程で学習能力を養い、良好な学習効果を得る手助けとなるものである。

(四) 生徒の主体性を優先し、個人差を尊重すること

日本語課程は教師が伝授し、生徒がそれを受け取るという単純な注入過程ではなく、生徒が教師の指導のもとに、自分で知識を構築していく過程である。学習活動の設計は生徒の心身や知的成長に適合し、生徒の想像力と創造力を発揮させることを重視しなければならない。個々の生徒をすべて学習活動に参加させるとともに、生徒の個人差を尊重して、生徒が学習活動中に個性を伸ばし、自主学习を促進させる手助けとなるものである。

(五) 現代技術を利用し、教育資源を開発すること

日本語課程では、現代技術を日本語教育に利用することを重視し、教育資源の拡張性と開放性に注目して、教科書と教室を中心とした授業形式を徐々に改革していこうとしている。教師は現場の事情に合わせながら、創造的に教具を制作し、マルチメディアによる教材を利用、開発して、豊富で多彩な教室内外の活動を実施する必要がある。条件の揃っている所では生徒にインターネットを利用させ、日本語の情報を入手し、ネット上で日本語による交流等の活動をさせてもよい。

(六) 評価体系を改善し、生徒の成長を促進すること

日本語課程が目標として努力しているのは、生徒の成長を促進させるための多面的な評価体系の樹立である。主に採用しているのは、形成的評価と最終的評価を総合する方式である。生徒の身につけた知識や技能を評価するだけでなく、生徒が運用できるコミュニケーション能力、及び感情態度や価値観等も評価する。教師が生徒を評価するだけでなく、生徒の自己評価や、生徒相互の評価、更には保護者や社会団体等関連する部門が参加した評価も行われる。生徒に評価によって得られた情報を適当な時期にフィードバックさせて、日本語を学習する上での自信を強めさせ、生徒の不断の向上を奨励しなければならない。

三、課程の設計構想

『全日制義務教育日語課程標準（実験稿）』（以下『標準』と略称する）は、『基礎教育課程改革綱要（試行）』を拠り所とし、中国内外の外国語教育改革の成果を参照し、初級中学生の心身の成長に伴う特徴も合わせて考慮して、義務教育段階の日本語課程の目標を「生徒の初歩的な総合言語運用能力を養成する」と定め、この基礎の上に日本語課程の性質を明確に定め、基本理念を提出し、並びに「課程目標」・「内容標準」・「実施提言」と「附録」等の幾つかの部分によって、『標準』の主要な内容を示した。これらの内容は相互に関連しており、一貫性を持たせている。

（一）「課程目標」は各級に分けて設計し、生徒に選択の余地を与える。

『標準』は国際的に通用する級分けの方式を採用した。日本語課程の目標を能力レベルに基づき、三つの級に分けて設計した。この設計は日本語学習の法則及び初級中学生の生理・心理の成長に伴う要求と特徴に従ったものであり、同時に我が国が多民族国家であり、広大な地域を有し、経済と教育の発達が均等でないという現実を考慮した。その上で日本語課程標準の整合性・柔軟性・開放性及び発展性を体現することを目指している。

『標準』は7年級から日本語課程の設置を始めるようになっている。その中で第三級を9年級卒業時に到達することが求められている基本標準としている。図1が示している通りである。

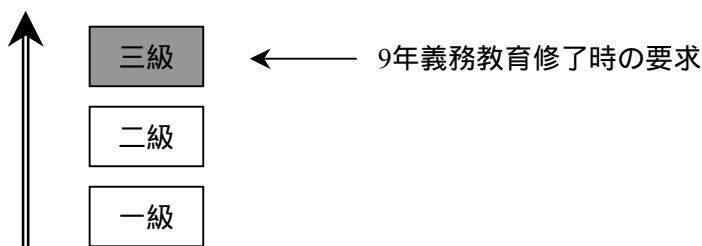


図1 日本語課程目標の級分け

課程目標の級別は義務教育段階の各学年と完全に対応するものではない。しかし、級別の目標は、初級中学の各学年の授業の配置・評価・及び教材の編纂等に対して、順序を追って一歩ずつ段階的に進めていくための指導上の目安を示しており、課程の総合的な実施のためのものである。

『標準』は、生徒が自分の実力に基づいて、自分に合った級を選択できるようになっている。各地域は、国家が課程を三クラス（国家・地方・学校）に分けて管理している政策規定に基づいて、学習段階が異なる日本語課程目標を適宜調整することができる。必要な教育上の基礎と教員の資質という条件が、当面は揃っていない地域や学校、並びに日本語を第二外国語として設置している地域や学校は、日本語課程目標が要求する学習段階を適当に下げることができる。日本語教育の基礎と条件が比較的良好に揃っている地域や学校（例えば小学校3年から日本語課程を開設しているところ）は、生徒の負担を重くしないという前提のもとに、日本語課程目標が要求する学習段階を適当に引き上げることができる。

（二）「内容標準」は課程目標を実現するための基本要件である

「内容標準」と課程目標は対応しており、言語知識・言語技能・文化的素養・感情態度及び学習ストラテジーという五つの部分で成り立っている。これらは互いに補完し合うことで、より一層効果が高まるものであり、生徒の総合言語運用能力の形成を支えて促進するものである。

言語知識は音声・語彙・文法を含み、言語技能は「聞く・話す・読む・書く」という四つの技能を含んでいる。文化的素養は文化的背景の知識、言語行動の特徴及び非言語行動の特徴を含む。感情態度は興味と動機、自信と意志、協調性、祖国意識や国際的視野等を含む。学習ストラテジーは認知ストラテジー、調整ストラテジー、資源ストラテジー、交際ストラテジーを含む。その中で、言語知識と技能に関する内容は日本語を学習する生徒すべてが身につけるべき基本的要求であるが、地域・学校・教師並びに教材編集者が、それぞれの需要を踏まえて、幅広くリソースを開発し、学習内容を広げるために、弾力的な内容とした。その他の内容は比較的柔軟性に富んでおり、生徒の個人差を尊重すべきであって、強いて統一を求める必要はない。

(三) 「実施提言」は実施者に提言するとともに、刷新の余地を残してある

「実施提言」は教師・教材編集者・教育管理のために、授業提言と評価提言、リソースの開発と利用、並びに教材の編纂と使用等の方面の提言を行った。各提言の中に、課程を実施する上での基本的な意図・原則を説明し、実施方法やストラテジー、教案例を提出している。

授業提言は「授業注意事項」・「授業時間」・「内容標準による授業指導提言」と「教案例」を含む。「評価提言」は「評価注意事項」と「評価例」を含む。「リソースの開発と利用」は、人的資源、施設資源、課外と校外資源、情報資源並びに無形資源等の開発・利用について、具体的な提言を行った。「教材の編纂と使用」は、教材編纂の基本方針と注意事項を提出し、教材の選択と使用についても提言した。

(四) 「附録」は「内容標準」の細目である。

「附録」は「話題」・「コミュニケーション用語」・「音声」・「語彙」・「文法」の五つの項目を含む。

「話題」は生活・学校・自然と社会という四つの領域の基本的話題を挙げて、その内容を提示する。「コミュニケーション用語」は表1と表2があり、表1は「時候の挨拶」・「紹介」・「感謝」・「お詫び」・「食事」・「買物」・「訪問」等の基本的な場面を列挙している。表2は「会話ストラテジー」・「情報収集」・「要求を出す」・「感情態度」等の基本的な言語機能を列挙している。

音声項目は「仮名とローマ字」・「音素」・「音節とモーラ」・「母音の無声化」・「アクセント」・「イントネーション」の六つの部分を含む。

語彙の項目は語彙表・語彙附表・漢字表によって構成されている。語彙表は日本語の基本語彙の中で使用頻度が高く、派生語を生み出す能力が強く、現代的で、中学生の常用語として適当なものを約800語収録した。それを「話題」と「コミュニケーション用語」と互いに関連させ、「音声」「文法」と釣合いが取れるようにした。語彙表には、「こそあど」系列の指示語や人称代名詞、時間や数量を示す語等、規則的な一連の語句がまとめて列挙されている。漢字表は、語彙表と関わる日本語の常用漢字及びその音読みと訓読みを列挙し、中国語の漢字と区別できるようにした。

文法項目は品詞・活用・センテンスの分類と文法細目の四つの部分を含む。初級中学生が必ず身につけなければならない基本文法の概要を簡潔にまとめてある。

『標準』の日本語課程の設計では日本語課程の具体的な実施のために、ある程度自由にできる余地を残してある。地域や学校、教師並びに教材編集者は『標準』の余地を弾力的に利用して、その地域の教材を補充し、日本語課程を豊富でかつ完全なものにすることができる。

第二部 課程目標

義務教育段階における日本語課程の全体的な目標は、生徒の初歩的な総合言語運用能力を養い、生徒の生涯学習と心身の健全な成長のために基礎を固めることである。総合言語運用能力の形成は、生徒の言語知識・言語技能・文化的素養、並びに感情態度や学習ストラテジー等を総合的に伸ばしてできた基礎の上に成り立つ。

言語知識と言語技能は、ある話題をめぐって日本語を運用し、コミュニケーション活動を展開させる基礎である。文化的素養は適切なコミュニケーションを実現するための前提である。感情態度は、生徒の学習と成長に影響を与える重要な要素である。学習ストラテジーは、学習効率を高め、自主的な学習能力の発達を保障するものである。これらは図2に示されているように、相互に関連し、あいまって日本語課程の全体的な目標の基本的枠組みを構成している。

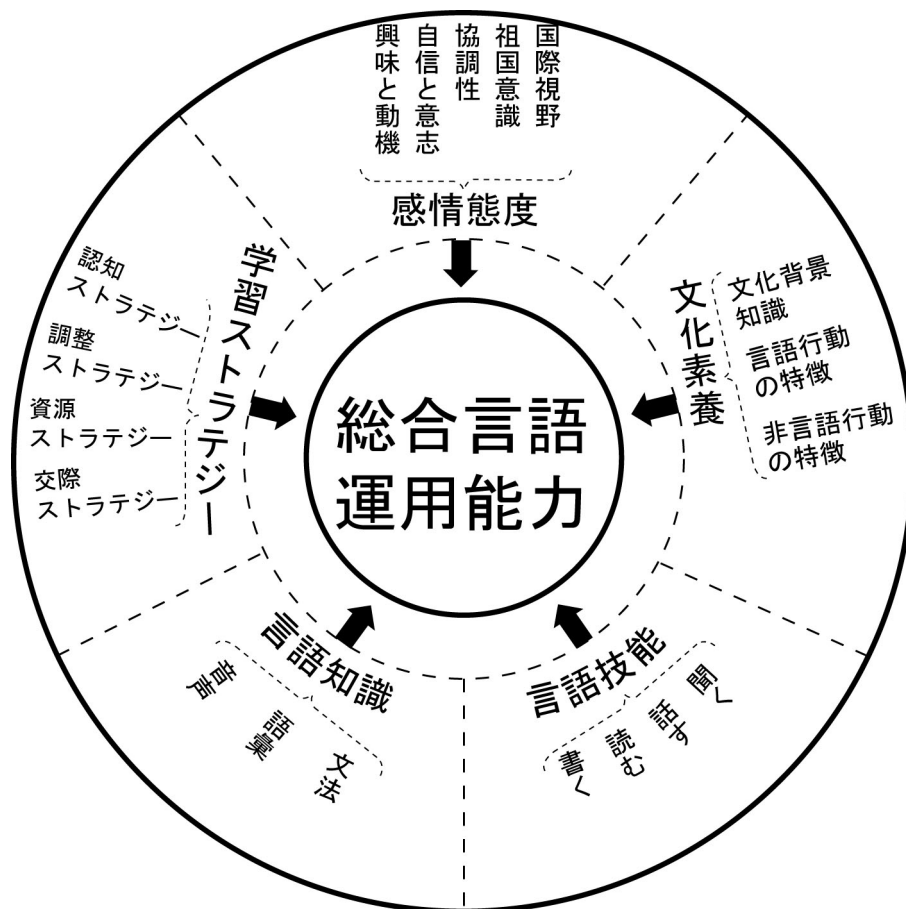


図2 日本語課程の目標の枠組み

義務教育段階の日本語課程目標は全部で三つの級に分かれている。各級別の課程目標はいずれも生徒の言語知識・言語技能・文化的素養・感情態度と学習ストラテジーという五つの方面の行動に対する総合的な要求を示している。以下に一級から三級に至る各段階の目標を述べる。

一級	<ul style="list-style-type: none"> • 教師の指導のもとでゲームができる。簡単な日本語の歌曲を歌うことができる。 • 日本語で簡単な個人情報の交換ができる。日常生活・学習用品・住居・学校施設等の話題をめぐって、教室内外の学習活動を展開する。挨拶・別れ・感謝・お詫び等、もっとも基本的で日常的な挨拶の表現方法を身につける。 • 単語を書くことができる。イラストや提示をもとにして、簡単な文を書くことができる。 • 日本語学習の中で触れた文化的背景に対して興味を持つ。進んで異国文化を理解する。 • 日本語学習に興味を示し、進んで学習し、積極的に協力する。 • 学習中に自発的に教えを乞い、自分に適した学習方法を積極的に模索する。
二級	<ul style="list-style-type: none"> • 教師の指導のもとでロールプレイのような学習活動に参加することができる。 • 日本語で、学習についての情報を交換したり、家族構成を簡単に紹介したり、興味や嗜好、衣食住や行動等の話題について簡単に議論したりすることができる。日本語で、簡単な要求や簡単な祝賀・賞賛の表現ができる。買物や食事等、コミュニケーション活動における日本語の表現方法を初歩的に身につける。 • モデル文を参照し、あるいはイラストを見て簡単な文を書くことができる。簡単なメモやカードを書くことができる。 • 言語行動と非言語行動における中国と日本の特徴的な差異について初歩的な理解ができる。 • 日本語学習に対して積極性と初歩的な自信を示し、日本語学習中に積極的に人と協力し、助け合うことができる。 • 初歩的な認知ストラテジーを運用して知識と技能を身につけることができる。初歩的な調整ストラテジーを運用して、自分の感情や行為を制御・調整できる。
三級	<ul style="list-style-type: none"> • 教師の指導のもとで寸劇を作ったり演じたりすることができる。 • 日本語で学校生活に関する情報を交換し、中日両国の自然や伝統的な祭日・文化施設等に関する話題について簡単な議論ができる。日本語で簡単な招待や提案をしたり、自分の簡単な願望や気持ち・態度を表現したり、身体の不調を簡単に説明したりすることができる。訪問・教えを請う等、慣習的なコミュニケーション活動における日本語の表現方法を身につける。 • 簡単で短い手紙や日記を書くことができる。 • コミュニケーションを通じて中国と外国の文化的差異に注意し、初歩的な異文化理解の意識を持つようにする。 • 日本語学習を通じて祖国への意識を一層深め、国際的視野を広げる。 • 初歩的な資源ストラテジーを利用して、周囲の環境を有効に利用したり、簡単な日本語学習計画を作成したり、自己管理をしたり、学習効率を高めたりすることができる。初歩的なコミュニケーションストラテジーが利用でき、日本語を運用してコミュニケーションを行う能力を高めていくことができる。

第三部 内容標準

義務教育段階における日本語課程総目標の級分けに対する要求によって、『標準』は言語知識・言語技能・文化的素養・感情態度及び学習ストラテジーの五つの方面に対して、具体的な内容標準を提示した。その中で、「言語技能」については三つの級別の内容標準を提示しているが、言語知識・文化的素養・感情態度・学習ストラテジーについてはただ第三級の内容標準のみを提示している。これは、学習内容の柔軟性を示して実施しやすいようにしたためである。

一、言語知識（第三級）

音声	<ul style="list-style-type: none"> 五十音図を暗唱し、仮名で書いてある語句をすべて読むことができ、アクセント記号によって正確に音読できる。 各種のアクセントと、最も基本的な用言の活用形によるアクセント変化の初歩を身につける。母音の無声化現象を理解する。 平叙文・疑問文・感嘆文・命令文等、各種の文の基本的なイントネーションを身につける。 通常に近い速度と比較的標準的な発音とイントネーションで、テキストの本文を朗読し、簡単な会話ができる。
語彙	<ul style="list-style-type: none"> 日本語の語彙の音読みと訓読みの初歩を理解する。 常用語約 800 語の基本的な意味と用法を身につける。
文法	<ul style="list-style-type: none"> 日本語の語順と文の特徴、及び主要な品詞の基本的機能と常用する助詞の基本的用法を理解する。 用言の基本的活用形式の初歩を身につける。一部の常用する接続詞と副詞の用法を身につける。 時間に関する主要な表現方法を身につける。平叙文・疑問文・感嘆文・命令文等、各種の文の基本的用法を身につける。

二、言語技能（第一級から第三級まで）

内容 級別	聞く	話す	読む	書く
一級	<ul style="list-style-type: none"> 教室内の簡単な質問を聞いて理解できる。 教室活動における簡単な指示を理解し、適切な反応を示すことができる。 ゆっくりした速度で、レベルが適切な発話や録音を聞いて理解できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 実物やイラスト、あるいは動作に基づいて、単語を正確に言うことができ、発音が基本的に正確である。 最も常用されるいくつかの挨拶用語を適切に使用できる。 熟知している話題について、問答を 2~4 回行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 仮名と既習単語を正確に読むことができる。 テキストの本文を正確に朗読できる。 イラストに基づいて、単語や短文の意味を読んで理解できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 平仮名と片仮名及び既習の日本漢字を正確に書くことができる。 簡単なモデル文をまねて書くことができる。 最も常用される挨拶用語を正確に書くことができる。

内容 級別	聞く	話す	読む	書く
一級	<ul style="list-style-type: none"> 非言語的な提示物（イラストや手まね等）の助けを借りながら、新出単語を含む一段落の話を聞いて理解できる。 			
二級	<ul style="list-style-type: none"> 教室での基本的な質問を聞いて理解できる。 教室活動における指示を理解し、適切な反応を示すことができる。 比較的ゆっくりした速度で語られた、熟知している話題についての一段落の話を聞いて理解できる。 提示されたものに頼りながら、比較的ゆっくりした速度で語られた、新出単語を含む短い物語を聞いて理解できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 非言語的な提示物を利用しながら、自分が熟知している事柄について簡単に述べるができる。発音・イントネーションが基本的に正確である。 比較的ゆっくりした速度で、5～6文の個人的な情報を提供することができる。 熟知している話題について、問答を4～6回行うことができる。 比較的ゆっくりした速度で、簡単な日直当番の報告を行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 通常に近い速度で、感情を込めてテキストの本文を朗読することができる。 イラストや、注釈・新出単語表等に頼りながら、簡単に分かりやすい言語資料で、新出単語が1%を超えないものを読むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 句読点等の基本的な符号を正確に使用することができる。 教師の指導のもとで、図を見て50字から100字の短文を書くことができる。 モデル文を参照して、簡単なカードや伝言を書くことができる。
三級	<ul style="list-style-type: none"> 教室における一般的な質問を聞いて理解することができる。 通常に近い速度で語られた、話題を熟知している一段落の話を聞いて理解することができる。 連続した指示を聞いて理解し、要求されたタスクを果たすことができる。 前後の文脈や非言語的提示物を通じて、新出単語の意味を推測することができる。一段落の話の主題を把握して、主要な情報をつかむ。 	<ul style="list-style-type: none"> 熟知している話題について、情報を提供し、個人的な意見を伝えることができる。発音・イントネーションが基本的に正確である。 通常に近い速度で、周囲の人や事柄について簡単に述べることができる。 熟知している話題について、問答を6～8回行うことができる。 通常に近い速度で、話題について簡単に説明することができる。表現は基本的に正確である。 	<ul style="list-style-type: none"> 通常に近い速度で、感情を込めてテキストの本文を朗読することができる。 辞書に頼りながら、簡単な説明文や、応用文・簡単な通信文で、新出単語が2%を超えないものを読むことができる。 簡単な文章の中から必要な情報を捜し出し、大意を理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 与えられた言語資料をもとにして、100字から150字程度の短文を書くことができる。文は基本的に筋道が通っており、書式も正確である。 簡単な通信文や日記を書くことができる。 イラストに基づいて、その内容を簡単に叙述する文を書くことができる。

三、文化的素養（第三級）

文化背景知識	<ul style="list-style-type: none"> ● 日本の地理的位置や国土・人口・首都・四季、及び桜や富士山が日本文化の中で占める象徴的な意義について初歩的な理解を得る。 ● 日本の中学生の学習と生活や、日本人の住居の特徴・飲食習慣について初歩的な理解を得る。 ● 日本の大衆的なスポーツや、主要な祝日・休日・慶祝の仕方等について初歩的な理解を得る。 ● 日本の一般的な交通状況について初歩的な理解を得る。
言語行動の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ● 日本人の慣習的なお互いの呼び方について、初歩的な理解を得る。 ● 日本語のコミュニケーションにおいて常用される、曖昧な表現の方法について、初歩的な理解を得る。 ● 挨拶したり、別れを告げたり、お願いしたり、感謝したり、原因や理由を述べたりする時の注意点について、初歩的な理解を得る。
非言語行動の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ● 日本語のコミュニケーションにおける、うなずき、微笑等の行動が含む意味について初歩的な理解を得る。 ● 日本語のコミュニケーションにおける、お辞儀、正座等の一般的な礼儀について、初歩的な理解を得る。 ● 日本語のコミュニケーションにおける、時間遵守の重要性について、初歩的な理解を得る。 ● 日本語のコミュニケーションにおける、適切な声の大きさについて、初歩的な理解を得る。

四、感情態度（第三級）

興味と動機	<ul style="list-style-type: none"> ● 日本語を学習して、日本やその他の国家を理解したいという興味や願望を持てば、その興味や願望が主体的な日本語学習につながっていく。 ● 明確な学習動機があれば、積極的な学習意欲が維持され、各種の日本語による実践活動に喜んで参加するようになる。
自信と意志	<ul style="list-style-type: none"> ● 日本語学習活動において、間違いを恐れる心理を克服し、大胆に言葉を真似て、日本語で思い切って表現できるようにする。 ● 日本語学習の過程において学ぶ楽しさを経験し、うまくできた時の喜びを体験して、日本語を十分に習得しようという信念を確立できるようにする。 ● 日本語学習中に直面した困難を克服するよう努力して、意志を鍛練できるようにする。
協調性	<ul style="list-style-type: none"> ● 日本語学習における各種の活動中に、積極的に人と協力し、互いに助け合って、共にコミュニケーション学習におけるお互いのタスクを果たすことができる。
祖国意識	<ul style="list-style-type: none"> ● 日本語学習を通じて、祖国の言語文化に対する理解を更に深め、民族としての誇りも一層強めることができる。
国際視野	<ul style="list-style-type: none"> ● 日本語学習を通じて、視野を広げ、他人の心情に気を配って理解することや、初歩的な異文化理解意識と国際意識を持つことができるようにする。

五、学習ストラテジー

認知ストラテジー	調整ストラテジー	資源ストラテジー	交際ストラテジー
<ul style="list-style-type: none"> • 画像や、音声・動作・連想等の方法を利用して、学んだ知識を記憶する。 • 学んだ言語材料を思い切って模倣し、大きな声で繰り返す。 • 自分の学習の特徴に合わせて予習と復習を行う。 • 問答したり自己表現したりすることを通じて理解を深めていく。 • 前後の文脈をもとにして、はっきり聞き取れなかった箇所や、読んでわからなかった箇所を推測する。 • ノートに記したり、大綱や図表等を用いたりする方法を学んで、学んだ知識を帰納して整理する。 • 中日言語の相違点を適切に比較し、学んだ知識を理解し把握するための補助とする。 	<ul style="list-style-type: none"> • 努力して学習し、達成感を得る経験を通じて、自信を身につける。 • 挫折した時は、失敗の原因を客観的に分析し、消極的な感情を克服する。 • 日本語学習活動の中で、協力する楽しさを体験し、良好な協力的態度を保持する。 • 何度も自分を正面から評価し、合理的な自己奨励と反省を行う。学習への興味を掻き立てることによって、潜在的な学習能力を開発する。 • 各種の学習活動と、適当な時期の自己フィードバックを通じて、自分の学習状況を理解し、学習過程を管理する。自分に合った学習法を模索し、学習行動を維持し修正する。 	<ul style="list-style-type: none"> • 合理的に自分の学習時間を管理し、実行可能な学習計画を立てる。 • 適当な明るさで、静かで整理された良好な学習環境を作るように努力する。 • 共同学習等を通じて、同級生と良好な関係を作り、打ちとけた学習の雰囲気を作るよう努力する。 • 他の生徒や集団が自分を促す効果を十分に利用して、自分の学習を促進させる。 • 各種の情報源を十分に利用して、日本語やそれに関する情報の摂取量を増やし、言語感覚を増強し、背景知識を広げる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 授業内外の学習活動と日常生活の中で、積極的に機会を求めて日本語で人と交流する。 • コミュニケーションにおいて、意思の伝達に注意力を集中し、言葉の表現が的確かどうか、過剰でない程度に顧慮する。 • 必要な時には、手まねや表情等の助けを借りてコミュニケーションを行う。 • コミュニケーションが困難な状態になった時は、簡単にあきらめないで、多方面から効果的に補助手段を探し出して、コミュニケーションを継続していく方法を考える。 • コミュニケーションにおいて、中国と外国との習慣の相違を意識し、適切で相手が受け入れやすい方法を選べるようになる。

第四部 実施提言

課程は『標準』の規定する目標と内容に依拠して実施される。具体的には以下のように提言する。

一、授業提言

日本語課程は生徒全体に向けたものでなければならない。日本語教育は、生徒の実践活動を主とするものであり、日本語を運用してコミュニケーション能力を発展させる活動等に生徒が直接参加することによって、彼らの総合言語運用能力を伸ばしていく必要がある。日本語教育は、生徒の日本語学習の法則に合わせるべきであり、また、様々な生徒の様々な需要を考慮し、教育の方法を科学的で多様なものにすべきである。そして『標準』が規定した各項の目標を実現していく過程において、生徒の能力を全面的に伸ばしていかなければならない。

(一) 授業注意事項

1. 活動的な教育を展開して、総合言語運用能力を伸ばす

日本語課程の最終的な目標は、生徒の初歩的な総合言語運用能力を養成することである。そこで、日本語教育は、主としてある話題をめぐってコミュニカティブ・タスクを完了させるような学習活動を展開させていくべきである。授業の設計は、話題の導入作用を重視し、生徒に十分な想像力や創造力を発揮させ、思考・調査・討論・交流や協力等の方法を通じて、総合言語運用能力を伸ばしていくものでなければならない。言語知識の教授と言語技能の養成は互いに孤立した教育行為ではなく、活動的な教育の中でできるだけ多くのものを融合させ、それらがあいまって有機的なまとまりを構成する必要がある。

2. 実際の言語環境に近い状況を設定し、要領を得た日本語コミュニケーション能力を養成する

日本語課程において、教師は教育活動の設計者及び指導者・組織者・協力者である。教師はくつろいだ愉快的雰囲気を作り、生徒の適切な学習への興味を高め、学習に対する信念を強めるように努力する必要がある。現実の状況に近い言語環境を設定し、生徒に日本語を実際に使う機会を数多く提供し、授業内容と練習を、自然かつ実際の生徒の生活に身近なものにしなければならない。同時に注意すべきことは、コミュニケーションにおける文化的要素の働きに生徒が関心を持つようにして、初歩的で適切な日本語コミュニケーション能力を養成し、学んだ内容を日常の交際と対外交流に応用していくようにすることである。

3. 学習ストラテジーの指導を強化するのは、生徒の生涯学習の基礎を固めるためである

日本語課程においては、教師が生徒の自主的な知識の構築を指導し、援助することを提唱する。授業の設計で必要とされるのは、生徒が物事を認識する法則に従って、生徒の心身の成長に伴う特質に合わせ、様々なタイプ、様々なレベルの生徒の需要をできるだけ満足させることであり、また生徒が自分の学習状況を客観的に把握して、適当な時期に学習行為を調整し、自分の個性に適した効果的な学習ストラテジーを形成するのを援助することである。授業の過程において、生徒が自主的に言語現象を観察し、言語法則を発見するように導き、生徒が注意して観察し、体験し、実践し、討論して、学習の全過程を完成し、同級生と成功を分かち合う場と時間を与え、日本語の知識体系を構築するために良好な基礎を固めさせる必要がある。

4. 科学的な授業時間の配置によって教育効果を高める

日本語課程が開設される学年は7年級とする。教育の質と教育効果を保証するために、7年級で毎週4時間以上配置することを提言する。小学校が日本語課程を開設する時は、毎週4回を下らない学習活動を行い、短時間の授業を頻繁に行う方法を用いることができるように提言する。例えば一回20分から30分くらいの授業を毎日行う等の方法である。第二外国語として開設する時は、毎週2～3回の学習活動を配置し、授業時間は具体的な状況に基づいて決定するように提言する。

(二) 内容標準における授業指導提言

1. 言語知識

言語知識は言語運用の基礎である。教師は生徒の特性と結びつけながら、実物や図画やアニメ等の視覚による方法と現代的な教育手段を取り入れ、必要な言語環境を作り出し、各種の活動を展開して、生徒の言語感覚を養成し、生徒の総合言語運用能力を形成していくべきである。

(1) 音声教育

音声教育においては、教師は生徒に多くの録音を聴き、多くの録画を見るように指導し、生徒が大胆に模倣することを奨励すべきである。発音のモデルを示したり、指導をする時は適当に誇張してよい。そのときは、生徒が清濁音や長短音を識別し、日本語の音節とモーラを把握するように注意して指導する。また母音の無声化、及び日本語の清濁音と、母国語の似ている音との区別に注意させる。また日本語の単語の最初の二つの音節が必ず違った高さになるというアクセントの法則を把握させる。そしてコミュニケーション学習活動において、日本語のイントネーションに気づかせて模倣させ、音声とイントネーションを次第に正確なものにしていくように指導する。

(2) 語彙教育

語彙教育は既習単語の再出を特に重要視すべきである。生徒が語彙を記憶する方法を身につけるよう手助けしなければならない。新しい単語を説明するときにはできるだけイラスト・実物・手まね・動作等を用いて、生徒が感覚的にイメージを描けるように手助けする。ある一つの単語だけを説明することは避けて、生徒が単語の組み合わせや機能・用法等の条件に注意するようにしなければならない。生徒が、センテンスや段落・文脈の中で単語を理解して使用するように指導する。語彙表に収録された語彙は、生徒全員が必ず習得しなければならない基本的な要求を示すものであるから、授業の時は実際の需要や生徒の受容能力に応じて、適当に語彙の量を増やすことができる。例えばある話題をめぐって関連する単語を紹介したり、同義語・対義語・自他動詞等を組み合わせることで練習することを通じて、語彙の量を増やす、等々である。

(3) 文法教育

文法教育の目的は、生徒が単語を組み合わせる文を作れるように指導することである。ただ無味乾燥に文法概念を説明することは避け、生徒に過剰な文法用語を教えないようにすべきである。できるだけ文法は実際のコミュニケーションに近い状況の中で、句型練習・応用練習・コミュニケーション練習と結びつけ、生徒に少しずつ正確な使用法を把握させるようにする。主として、生徒に用言の変化の規則を正確に把握させ、基礎的能力を身につけさせる。適宜、文法規則を帰納的に総括して、生徒が文法機能や用法に気をつけるように注意する。

2. 言語技能

言語技能には「聞く・話す・読む・書く」が含まれており、これら四種類の技能全体が有機的にまとまって、互いに支え合っている。言語技能は言語運用能力を構成する重要な基礎である。

義務教育段階では生徒の年齢的な特徴に合わせて、全面的な成長を目指しながら、各段階では重点分野を持つという原則を堅持し、各項目の技能訓練の割合を合理的に配分する必要がある。最初は聞くことと話すことに重点を置き、以後次第に読むことと書くことの比重を大きくしていくべきである。

リソースを十分利用し、同一の言語材料を何項目かの練習に合わせて考えてもよい。例えば「聞く」練習の後、また生徒に聞いた語句や文型を用いて、質問させたり復唱させたりするという「話す」練習をする。読解の練習では、読んだ内容をめぐって口頭で話したり、文に書いたりする練習をしてもよい。豊富で多様な面白い方法を取りいれて、学習活動を展開し、いろいろな教育手段を使用して生徒の聴覚や視覚を働かせ、教育効果を高めていく必要がある。教室の授業は生徒の活動と練習を中心とし、教師が説明する時間が全体として生徒の活動・練習時間を超えるのはよくない。

(1) 聞く

初級段階の聞き取りの練習は、まず生徒が音を弁別し、語義と簡単なセンテンスを聞いて理解できるようになり、それから徐々に発展させて、ひとまとまりの短い会話や短文を聞いて理解できるようになることを焦点として指導すべきである。会話や短文を聞く時、イラストや実物等を利用して背景の知識や関連する語を紹介したり、またその場面について必要な説明を行うことができる。

聞き取りの練習は一般的に大まかな方法と細かい方法がある。大まかな聞き取りの時は、生徒が必要な情報を聞き取ることを学ぶように注意して指導する。細かい聞き取りの時は、生徒が素材の中の音声・語彙・文型・語気等を把握するように注意して指導する。授業中に注意すべきことは、生徒の推測能力を養成し、生徒が聴きながら書く方法を身につけるように指導することである。適宜簡単な書き取り練習を多少行う。

聞き取り練習の前に、教師は若干の要点や問題を提示して、生徒が目的を持って聞くようにさせてもよい。また教師は、生徒が授業後に聞き取り練習を行う方法をあらかじめ指導すべきである。

(2) 話す

「話す」練習はテキストが提供する言語材料を基礎として、生徒の生活や学習の実情と関連づけ、ある話題をめぐって展開する。問答したり繰り返したり会話したりする形を取ることができる。

「話す」練習は一般的にまねることから始まり、教師は、生徒が間違いを恐れたり、緊張したりする心理を克服できるように手助けして、大きな声で朗読し、大胆に日本語をしゃべるように奨励する必要がある。

「話す」活動においては、教師は教室の雰囲気気楽で愉快的なものにして、グループ練習等の形を取りいれ、一人一人の生徒に「話す」機会を設けるよう努力すべきである。

教師が生徒の誤りを直す時には、励ますことを主としなければならない。生徒の会話がひと区切りついた後に集中して直すのがよく、できるだけ途中で話を切らないようにする。生徒がどう言ってもいかわからなくなったときは、適当にヒントを与え、生徒が最後まで表現できるように手助けする。

(3) 読む

「読む」には、文字の認識・朗読・読解が含まれる。

日本語の仮名と漢字・ローマ字を認識することが、「読む」ことの最初の段階である。平仮名・片仮名を同時に出すことを考えてもよく、また先に平仮名を教え、続いて片仮名を教えるもよい。混同しやすい日本漢字と中国漢字を生徒が区別するように、気をつけて手助けしなければならない。ローマ字はただ認識できればよい。

朗読はテキストの本文を主として、幾つかの簡単で読みやすい言語材料を適宜与えるべきである。生徒が大きな声で朗読することを奨励し、文や文の成分の間にあるポーズ、及び発音・イントネーションに注意するように指導する。

読解は、生徒が学んでいるテキスト本文と同程度で、短く簡潔な内容のものにすべきである。教師は関連する知識や背景を紹介したり、口頭やプリントで質問を出したり、生徒に情報を読み取る方法を教えたりしてよい。また問答練習やグループ活動等の方式を用いて、生徒に読んだ素材に対する理解を深めさせることができる。例えば生徒に規定時間内に読解を終わらせるタスク等、読解速度の訓練を適当に行ってよい。

(4) 書く

「書く」には、書写と作文が含まれる。

書写には書き写したり、そらで書いたり、聞きながら書いたりする形がある。教師は書写の規則を強調し、生徒に平仮名や片仮名の正確な書き方を身につけるように要求すべきである。また中日双方の言語の漢字の書き方の違いを区別することを指導する必要がある。

「作文」には、単語を組み合わせてセンテンスを作ったり、短文を書いたりすること等が含まれる。教師は生徒に、既習の単語や文型を用いてセンテンスを作らせてよい。また生徒にイラストをもとにして短文を書くように指導してよい。また生徒にモデル文を参照させて、それを真似て年賀状やメモ・簡単な標語等の短い応用文を書かせてもよい。作文の授業中には、生徒が真面目に観察して思考し、句読点や符号を正確に使用し、書いていく手順をわきまえて、書式の規範に注意するように指導する。生徒が国語の授業で学んだ作文の方法をうまく利用できるような指導すべきであり、作文の練習等を翻訳と同一視してはならない。また、まず中国語で大意を書き出してから、日本語に翻訳するという悪い習慣は克服すべきである。

3. 文化的素養

文化的素養の教育は文化的背景の知識や、日本語の言語行動の特徴、非言語行動の特徴という三つの方面の理解を含んでいる。文化的素養の形成は、文化を絶えず多量に感じ続けることを基礎として成り立つ。そのため、文化的素養の教育は、言語教育において終始一貫して行う必要がある。

教師は生徒に、教材や書籍・雑誌・映画・テレビ・ビデオ及び関連する日本語のホームページ等を含む、多くの経路を通じて背景の知識を理解させる。そうして日本文化及び中日文化の異同についての認識を絶えず積み重ねていくように指導する。

言語行動と非言語行動については、教室の授業において相当な重要性を与え、また練習や実践を通じて絶えずコミュニケーションのレベルを高めていく必要がある。日本人のコミュニケーションにおける顕著な特徴は、なごやかな人間関係を重要視していることであり、教師は生徒に、どのような言語現象が、そのことを示しているか説明すべきである。日本人が、双方に感情的なずれのない交流を

維持することを比較的好むことや、言語表現に婉曲なものが直接的なものより多いこと等の特徴を、生徒が理解できるように手助けする。また、どのような言葉遣いや、行動・振る舞いが、交際中のなごやかな雰囲気や簡単に壊すかということを生徒に気づかせる。言語表現や行動・振る舞いの背後に隠された文化的要素を適当に教示し、並びに訓練を通じて適切な言語あるいは非言語的コミュニケーションの方式・方法を、生徒に身につけさせる。また生徒が、中日の文化的差異について初歩的な観察や分析を行い、自分の意見や見解を提出し、適当に母国語を用いて討論を展開するよう、注意して指導しなければならない。

4. 感情態度

感情態度の教育は、日本語学習への興味を養成して、学習の動機を呼び起こすことや、自信を確固たるものとして、意志を練磨することや、協調性と祖国への意識を育て、国際的視野を広げて正しい価値観を確立すること等を含む。感情態度の教育は一朝一夕に完成できるものではない。言語教育と実践活動において終始一貫してなされるべきものである。

教育活動においては、適切な言語教育と、生徒の学習への興味を呼び起こす様々な方法を通じて、彼らに日本語を運用する面白さを体験させることができる。生徒が少しでも進歩するよう適宜奨励し、生徒が新しい知識・新しい技能を身につけた喜びを体験し、初歩的な達成感を得られるような条件を創造すべきである。そうすることで日本語を習得できるという自信を確立し、更に学習を進めていくための大きなエネルギーに換えて行くようにさせなければならない。

教育過程においては、生徒が十分に表現して力を伸ばす機会を提供し、生徒が大胆に日本語を使用することを奨励すべきであり、彼らの学習中の失敗や誤りにも寛容な態度を取るべきである。性格が内向的で羞恥心の強い生徒に対しては、特別に注意を払って、彼らに日本語を実践する機会を多く与えなければならない。余力を持って学ぶ生徒に対しては、更に彼らがよく人の意見に耳を傾け、人を称賛し、謙虚に学習していけるような、健全な精神を養成すべきである。

グループで学習上のタスクを遂行させる形式を多く採用して、学習活動を行ってもよい。タスクには一定の難度を設定すべきであり、一定の努力をして初めて目標を達成できるものをよしとする。生徒に協力して学習上のタスクを果たさせていく過程の中で、彼らは集団で協力することがどれだけ力になるかを感得し、困難を克服しようとする意志を鍛練し、集団で協力する精神を養成していくのである。

生徒の感情の教育と養成において、教師自身の感化力が非常に重要である。教師は自分自身が言語と文化に対して感じていることを通じて、生徒の共鳴を呼び起こすべきである。生徒の祖国意識を養成し、国際的視野を広げるには、教師も一定の外交常識を持つ必要がある。そして、中国人の立場に立って授業を指導しながら、それが文化交流の上で適切な程度であるように注意しなければならない。同時にまた狭隘な民族主義的感情を防止して、広い国際的な視野と角度から問題を捉えて処理し、客観的・公正であるように努力すべきである。

5. 学習ストラテジー

学習ストラテジーには、認知ストラテジー・調整ストラテジー・資源ストラテジー・交際ストラテジーが含まれる。認知ストラテジーとは、生徒が学んだ知識を絶えず記憶・整理・理解するためのストラテジーである。調整ストラテジーとは、生徒が学習過程において自分の感情と態度を調節し、制御するためのストラテジーである。資源ストラテジーとは、生徒が学習過程において、時間を合理的に利用し、環境作りを有効に行い、また積極的に周囲の支持を求めるためのストラテジーである。交際ス

トラテジーとは生徒が学習において、日本語を運用してコミュニケーション活動を展開するとき、困難を排除し、コミュニケーションを遂行するためのストラテジーである。

教師は教育過程において、日本語の特徴と関連づけて、生徒が自分の特徴に合った学習ストラテジーを、意識的に形成していくように指導する必要がある。実際の学習ストラテジーの養成過程においては、以下の点に注意すべきである。

- (1) 認知ストラテジー・調整ストラテジー・資源ストラテジー・交際ストラテジーの四者は、協調して発展し、互いに促進し合うものである。認知ストラテジーの訓練と同時に、調整ストラテジー・資源ストラテジー・交際ストラテジーの養成にもまた注意しなければならない。
- (2) 学習ストラテジーの養成は、具体的な日本語教育過程の中で進めて行くべきものであり、言語知識・言語技能の教育や日本語コミュニケーション能力の養成から離れて、孤立したものとして学習ストラテジーの訓練を行うべきではない。
- (3) 学習ストラテジーを身につけ、使用することは、多くの内外の要素の影響を受けることになる。訓練の過程において、生徒の年齢的な特徴や、既習の知識や基礎、素材の難度、学習目的等の影響を十分に考慮しなければならない。
- (4) 実際の養成過程においては、ストラテジーの使用によって学習成績を確実に高めることができると生徒に感じさせ、ストラテジーの使用と成績の向上の間に、一種の積極的な相関関係を成立させる必要がある。また生徒が自発的にストラテジーの有効性を検討するように教育すべきである。
- (5) 学習ストラテジーの養成において重要なことは、ただ生徒に学習ストラテジーの具体的な内容を教えることだけでなく、各種の機会を提供して、生徒に様々な状況の中で実際の応用練習をさせる必要があるということと、ストラテジーを使用する際の条件を明確にする必要があるということである。

もちろん、これまでに述べた共通の基盤に注意した上で、教師はまた、ストラテジーの性質の多様性に基づいて、認知ストラテジー・調整ストラテジー・資源ストラテジー・交際ストラテジーの養成という問題を個別に考慮していかなければならない。

(三) 教案例

教案例一 語彙教育活動 瞬間記憶能力の養成を合わせて考慮する

活動目標: 対義的な形容詞の認知と記憶

学習内容:

高い/低い 早い/遅い 太い/細い 易しい/難しい
暑い/寒い 良い/悪い 冷たい/熱い 暖かい/涼しい
広い/狭い 遠い/近い 明るい/暗い 大きい/小さい
長い/短い 強い/弱い 新しい/古い 固い/柔らかい

準備教具: 形容詞を書いたカード数組

活動形式: グループに分ける(10人以下)

活動過程:

- (1) 生徒をいくつかの小グループに分ける。
- (2) 形容詞を書いた面を下に向け、机の上に並べる。

- (3) 順序に従って、一人の生徒に二枚のカードをめくらせる。
- (4) もしその二枚のカードが対義語（例えば「易しい」と「難しい」）であれば、その二枚のカードを手にとって、同時に大きな声でその二つの語を正確に読む。
- (5) もし、読み方が正確であれば、その二枚のカードを自分のものとしてよい。そしてまた続けて二枚のカードをめくる。これによってやり方を類推する。
- (6) もし正確に読めなかったり、またはめくったカードが対義語になっていなかったりしたら、めくったカードを元のようにおいて、次の生徒が続けてカードをめくる。この時、他の生徒はこの二つの語を瞬間的に記憶しておかなければならない。自分がめくる番になった時、求めているカードを捜せるようにするためである。
- (7) カードを多く獲得したものを勝ちとする。

提 言: カードの内容はただ対義語になっている形容詞だけではなく、このような方法を通じて、動詞と目的語（本 / 読む）や、修飾と被修飾関係（黄色い / みかん、速く / 走る）を組み合わせたり、会話を完成させる（お元気ですか / おかげさまで、元気です）練習等ができる。これらの学習活動は、またクラスの生徒全員に、共同で完成させることもできる。

教案例二 聴力教育活動 初歩的な予測能力を養成する

活動目標: 話の状況をもとにして話者の態度を予測する

学習内容: 会話の録音を聞く

必要な教具: テープレコーダー、テープ

活動形式: クラス全員

活動過程:

- (1) 場面と会話している人物の関係を紹介する。
- (2) 録音を再生する（生徒はテキストを見ない）。下記の録音内容の中で線を引いた部分は隠す。
- (3) 生徒に具体的な話の状況をもとにして、Bの態度を推測させる（賛成か反対か）。
- (4) 再び録音を聞き、予測した内容が正確かどうか確認する。
- (5) 教師はポイントとなる表現を提示し（あいてますよ、いいですね、ちょっと、そうですか ↘ ）、生徒にポイントとなる表現を学んで把握させ、聞いて理解する方法を身につけさせる。
- (6) 再び録音を聞き、より深く理解する。
- (7) 生徒に口頭あるいは文章で会話の大意をまとめさせる。実際の状況に基づいて、教室で行うか、また授業後の宿題として残してもよい。

録音内容 1:

A: あしたの午後はあいていますか。

B: あしたの午後ですか。

A: ええ。

B: あいていますよ。

A: 映画を見に行きませんか。

B: 映画ですか。いいですね。行きましょう。

A: じゃ、行きましょう。

B: ええ。

録音内容 2:

A: さん、ぼく、映画の切符が2枚ありますが、どうですか、いっしょに映画を見に行きませんか。

B: 映画ですか。何時のですか。

A: あしたの午後ですけど。

B: あしたの午後はちょっと。

A: そうですか。

B: 今度ぜひまた誘ってください。

教案例三 会話教育活動 コミュニケーション能力の養成

活動内容: ロールプレイ

学習内容: 新しく転入してきた同級生を案内して、学校を紹介する。

必要な教具: カード1(在校生) カード2(新しい同級生)

活動形式: グループに分ける(二人ずつ)

活動過程:

- (1) グループ分け。
- (2) カードを配る。
- (3) 教師がタスクについて説明する。
- (4) 生徒はカードによって、それぞれの役に分かれて練習する。
- (5) 何組か選んで教壇の上で演じさせる。
- (6) 教師の講評(言葉・文型を正確に使用しているかどうか、適切かどうか等を含む。発音やイントネーションの正確さを厳しく要求する必要はないということに注意する)。
- (7) みんなで討論し、一番よかったグループを選出する。

提言: 活動が終わった時、教師は状況を考慮しながら、まとまった会話のモデルを与えてよい。

<p>カード1</p> <p>配役: A(在校生)</p> <p>役割: 新しく転入してきた同級生に学校の状況を紹介します、案内する。</p> <p>挨拶する。</p> <p>学校の食堂・図書館・運動場・教室等を紹介する。</p> <p>別れの挨拶をする。</p> <p>表現方式:</p> <ol style="list-style-type: none">1. こんにちは。2. こちらこそよろしくお願ひします。3. こちらは～です。4. あしたまた。	<p>カード2</p> <p>配役: B(新しい同級生)</p> <p>役割: 在校生に学校の状況を紹介します、案内してもらい、案内してもらい。</p> <p>挨拶する。</p> <p>学校に関する、知りたい状況を尋ねる。</p> <p>礼を述べる。</p> <p>別れの挨拶をする。</p> <p>表現方式:</p> <ol style="list-style-type: none">1. こんにちは2. よろしくお願ひします。3. ～はどちらですか。4. 今日はいろいろありがとうございました。5. あしたまた。
---	---

例:

A: こんにちは。

B: こんにちは。今日はよろしくお願ひします。

A: こちらは学校の食堂です。毎日 11 時半から 13 時までです。

B: 朝は何時からですか。

A: 朝は 7 時からです。

.....

B: 今日はどうもありがとうございました。

A: いいえ。

B: じゃ、またあした。

A: あしたまた。

教案例四 収集・処理・交換 「聞く・話す・読む・書く」という四技能が連動した教育活動を促進する。

活動目標: 計画を作成し、情報を収集し、実施案について討論し、活動内容を確定し、計画を報告する。

任 務: 遠足の計画を立てる。

活動形式: グループに分ける。

活動過程:

- (1) グループ分け。
- (2) 情報収集 各グループが手分けして調査を実施する(路線の状況・必要経費・天候・景勝地についての知識等)。
- (3) 情報処理 収集した資料をもとに、グループ全員が計画について討論し、合わせて実施計画を決定する。
- (4) 情報交換 各グループがそれぞれ決定した実施案を報告する。
- (5) クラス全体で討論し、最もよい案を確定する。

提 言: 情報収集と情報処理の過程では、日本語と中国語を併用してよい。情報交換の時は状況に応じて、できるだけ日本語を使用して、口頭で報告する。第三級の際は、教師はまた各グループに、報告書を日本語で書いてみて一部提出するように要求してもよい。

教案例五 言語知識と文化的背景を関連づけた学習活動

活動目標: 言語知識を学習し、合わせて日本の文化的背景の知識を理解する。

学習内容: 「～に(へ)行きます、～と行きます、～で行きます」の文型を学習し、合わせて日本文化(地理的知識)を理解する。

必要な教具: 日本の白地図・地名カード・乗り物(新幹線・飛行機・電車・自動車・船等)の模型・旅行者(模型)若干・紙の旗若干。

活動形式: 教師がクラス全員を引き連れて(あるいはグループに分けて)、模擬旅行をする。

活動過程:

- (1) 地図を開く。

- (2) 大都市の名前を言って、地理的な位置を指し示し、地名カードを貼る。
- (3) 生徒は旅行の目的地を言って、小さい旗を相当する位置に挿す。
- (4) 一緒に旅行する仲間を決定する。
- (5) 交通機関を選択する。
- (6) 生徒（個人あるいは小グループ）は自分の旅行のコースと旅行の方法（交通機関・旅行仲間）を紹介する。

提 言: もし条件が許せば、比較的大きな教室を選んで、地面の上に日本の白地図を描き、「実際に」模擬旅行をしてよい。

教案例六 ある状況において集団活動をしながら文法を学習する

活動目標: 教室で宝を探す ある状況を作って文法知識の授業をする

学習内容: ~に~がある。

必要な教具: 文房具、スポーツ用品あるいは日用品の実物、または実物の名称を書いたカード。

活動形式: クラス全員あるいはグループ分け

活動過程:

1. 教師の実演 文型の導入

- (1) 実物またはカードを教室の各所に分散して置く。
- (2) 教師は実物またはカードを指しながら、「これは辞書です」、「これは机です」、「これはボールです」という。
- (3) 生徒は教師の後について、以上の例文を復唱する。
- (4) 教師は実物またはカードを指して「机の上に辞書があります」、「机の下にボールがあります」等と言う。
- (5) 生徒は例文を真似て言う。
- (6) (2)~(5)の過程を繰り返し、生徒が理解したら止める。

2. 生徒活動 応用練習

- (1) A・Bのグループに分け、活動時間を設定する。各グループ5分ずつ、Aグループから宝を探し、その後交代するように提言する。
- (2) 実物またはカードを教室の各所に分散して置く。
- (3) 教師は日本語で探して欲しい品物の名称を一つずつ述べる。例えば「辞書」、「ボール」等。
- (4) 生徒は宝物を探し当てた後、まずその名称を言い、それから位置を言う。例えば「辞書です」、「机の上に辞書があります」等。
- (5) 正確に言い表せた生徒は宝物を手に入れることができ、正確に言い表せなかった者は、宝物を元の所に返す。
- (6) 手に入れることのできた宝物の数によって、優勝を決定する。
- (7) 教師は本課の学習内容を総括する。

教案例七 図を見て物語を述べる

活動目標: 表現練習

学習内容: イラストの助けを借りて物語を述べる 「花の道」(21頁の図参照)

必要な教具: 教師は、生徒が物語を述べる上で、手助けとなるような一組のイラストを準備する。

活動形式: 小グループ活動。

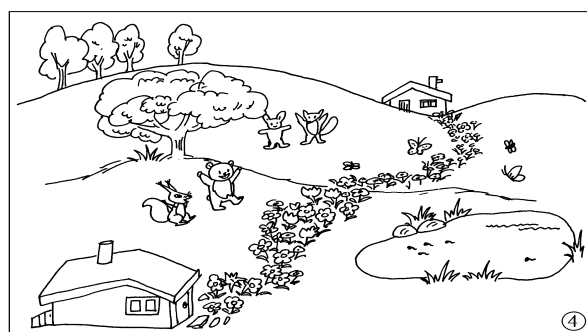
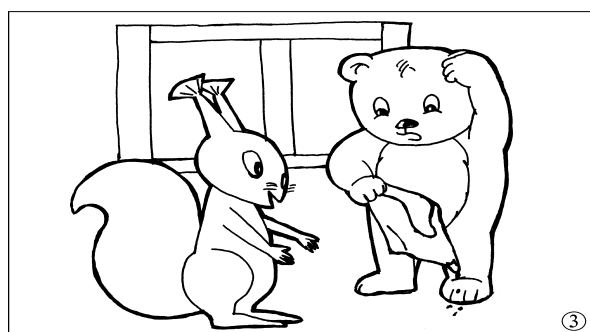
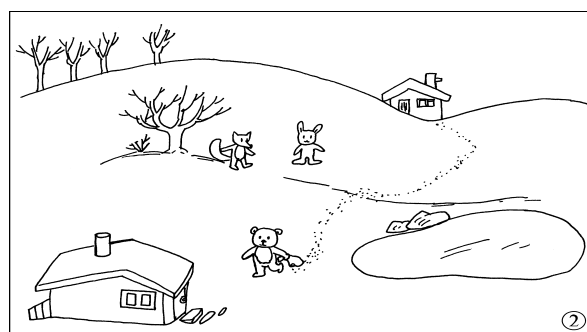
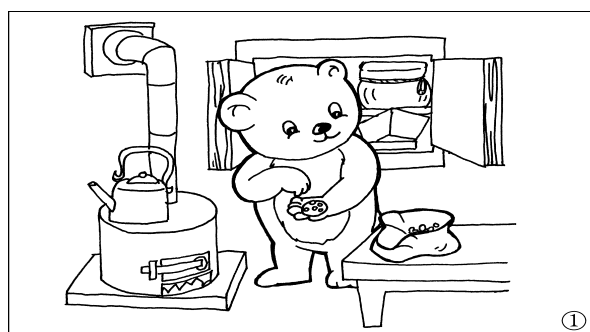
活動過程:

- (1) グループ分け
- (2) 各グループに一組のイラストを配る。
- (3) 各グループで討論して、物語の内容を組み立て、わからない言葉に出ったら、可能な限り身振りによって表現する。また辞典を調べたり、先生に教えてもらってもよい。
- (4) 各グループはクラスで発表する。形式は自由でよい(例えば順を追って述べる方法でもよく、役割を分けて実演してもよい)。

授業後の宿題: 物語を述べる。物語の内容及び補助用のイラストは、生徒が自分で選ぶ。生徒が自分でイラストを描くことを奨励してもよい。生徒の誰かが一人で完成してもよく、またグループに分かれて完成してもよい。

提 言:

- (1) 生徒が口頭で発表した物語を、日本語で短い文章や会話で書くように求める。
- (2) 伴奏付きで朗読してもよい。



例1 順を追って述べる形式

クマさんが袋を見つけました。「おや、何だろう。いっぱい入っている。」

仲良しのリスさんに、急いで聞きに行きました。

クマさんが、袋をあけました。何もありません。「しまった。穴があいていた。」

暖かい風が吹きはじめました。長い長い花の一本道ができました。

例2 配役を決めて演じる

- ㊦ クマ: おや、大きな袋だ。何だろう。
(袋を開けて) いっぱいあるね。何これ。リスちゃんに聞こう。
- ㊦ サル、ウサギ: おはよう、クマくん、どこへいくの?
クマ: リスちゃんのお家に行くんだ。
サル、ウサギ: 行ってらっしゃい。
クマ: 行ってくる。ああ、暖かい風だ、気持ちいい。
- ㊦ クマ: こんにちは、リスちゃん。
リス: こんにちは、クマくん。
クマ: 今日はいいものを見つけたんだ。
リス: 何。見せて。
クマ: これ……、あれっ。おかしいなあ。いっぱいあったんだけど……。
リス: どうしたの?
クマ: 何が入っているか、分からなくて、聞きに来ただけ……。
リス: あら、ここに穴が……。
クマ: しまった。全部なくなった。
- ㊦ (その後、ある日、リスちゃんが尋ねてきました)
リス: クマくん、早く起きて。
クマ: こんな早い時間に、だれだろう。はあい。
リス: 早く起きて、きれいなお花がいっぱいあるわ。
クマ: えっ、どこに。
リス: さあ、早く見に行こう。
クマ: ああ、ほんとだ。きれいな花がいっぱい咲いている。
リス: きれいなお花の道だわ。
クマ、リス、ウサギ、サル: すご~い。わ~い。

二、評価提言

評価は日本語課程の重要な構成要素である。科学的な評価体系は課程目標の実現を保証するための重要な手段となる。評価の目的は課程目標の要求に基づいて、教育の全過程と結果に対して管理・制御を実施し、学校に『標準』の実行情況を了解させ、教育管理を改善させ、日本語課程を絶えず発展させ完全なものにするように促進させることである。教師にとっては、日本語教育におけるフィードバック情報となり、授業進行に対する適切な調整を行わせ、教育と授業の水準の不断の向上を促進させるものである。また生徒にとっては、日本語学習において絶えず進歩と成果を体験させ、総合言語運用能力の全面的成長を促進させるものである。

日本語課程の評価体系は、評価主体の多元化、評価方式の多様化、評価目標の多層化を示すべきである。評価においては、生徒の日本語運用能力の成長過程とその学習効果に配慮して、学習過程と学習結果の評価を調和・統一させなければならない。

(一) 評価注意事項

1. 評価主体を多元化し、生徒の健全な成長を促進する

評価主体の多元化は、生徒・教師・同級生・保護者・学校が共同で評価に参加することにより、生徒が得られた進歩を全体的、客観的に評価し、生徒の健全な成長を促進するための条件を創造することである。その中で生徒は評価対象であり、また評価の主体でもある。評価においては、生徒の主体性を十分に発揮させ、彼らの自己評価の意識と能力を養成すべきである。教師は生徒のこの種の自己教育の方法を奨励・支援し、彼らが自分の潜在能力を強化できる学習環境を創造しなければならない。生徒が評価基準に基づいて、学習内容の程度や、日本語学習における感情態度・学習ストラテジー等を、自分がどれだけ把握しているか評価できるように指導する必要がある。そして、生徒が自分の現在の学習状況を理解し、長所を発見し、足りない点や問題を解決する方法を探し出し、時宜にかなった自己制御を行い、信念を確立し、学習への興味を絶えず呼び起こすようにさせるべきである。

多元化した評価主体において、一人一人の生徒に対する教師の評価は的確で理に適っていなければならない。同級生の間で相互に評価する時、教師は彼らが相手の長所を見出すことを主とするように導く必要がある。保護者は生徒が家にいる時の学習状況と進歩を主として評価し、学校は生徒の成長に応じて全体的・客観的な評価をすべきである。

2. 評価方式を多様化し、評価目標を多層化する

評価方式は多種多様なものである。『標準』の評価体系は、形成性評価と終結性評価を結びつけるが、形成性評価を主とし、定性評価と定量評価を結びつけるが、定性評価を主とし、他者評価と自己評価を結びつけるが、自己評価を主とし、総合評価と項目評価を結びつけるが、総合評価を主とする評価方式を提唱する。

個々の生徒の個性の成長と段階的な成長は不均衡なものであるため、学習過程において、生徒の認知能力や性格の特徴には差異が存在する。教師はこれらの個人的差異を認めてそれを保護する必要があり、教育の中で様々な段階の評価目標を設計し、生徒が自分の長所を十分に発揮できるようにしなければならない。同時に、様々な評価方式を採用するように配慮して、様々なレベルの生徒がすべて成功する機会を得られるようにし、成功する喜びを体験して日本語を習得できるという自信を強めさせるべきである。

3. 形成性評価の生徒の成長に対する作用を特に重視する

形成性評価は、生徒が日常の学習過程で示し、収めた成績、及びそこに反映されている感情態度、学習ストラテジー等の進歩状況に対してなされた評価である。形成性評価をうまく行うには、開放的なくつろいだ雰囲気を作り、テストによる場合とよらない場合と、個人とグループを結びつけた方式で評価を展開する必要がある。例えば学習記録を作成したり、アンケート調査や生徒の学習効果の自己評価・保護者の子女の学習状況に対する評価・教室活動の比較評価・各種の小テストや定期試験等を行ったりする。形成性評価の方式は叙述する形でもよく、等級や点数をつける方式でもよい。叙述は懇切・具体的で、生徒の個人差を反映させるべきであり、等級や点数は、生徒が達成感を得られ、問題点を見つけ出せるようなものでなければならない。どの方式にしても、すべて正面から学習活動を奨励し、促進するという評価の作用を重視すべきである。

4. 終結性評価は生徒の総合言語運用能力の考査に重点を置く

終結性評価は期末試験や卒業試験等の定量評点方式を一般に採用する。また評語式の評価を取り入れてもよい。期末試験と卒業試験は、生徒の総合言語運用能力を考査することを目標とし、できるだけ生徒の言語水準の成長の状況を科学的・全面的に考査するように努める必要がある。試験の形式は、主として口頭試験や聞き取り・筆記試験等を含み、各種の試験形式の配分が適切でなければならない。口頭試験は生徒の表現能力や、音声規則を適切に把握しているかを測ることに重点を置くべきである。聞き取りは生徒が情報を理解して把握できる能力を測ることに重点を置くべきであり、文脈から離れた単なる音の聞き分けを試験の内容とすべきではない。筆記試験では、単なる音声知識を考査する問題はやめ、語彙や文法知識を単純に考査する問題は減らして、難度を下げなければならない。まとまった文脈を持つ応用問題の比率を増加させ、客観問題は減らして、主観問題を増加すべきである。評価において、成績順に生徒の名前を並べる等の悪いやり方は、個々の生徒を偏りなく成長させる上で無益であり、廃絶しなければならない。

5. 項目評価と総合評価は、補完効果があるもので、総合評価を重視すべきである

項目評価は主として、各種の個別の言語技能（聞く・話す・読む・書く）と、各種の言語知識（音声・語彙・文法）の習得に対する評価を含む。総合評価は項目評価の単純な総和ではなく、文化的素養や、コミュニケーション能力を含む心理的資質、問題を分析し解決する能力等も包括した、言語知識と言語技能の運用に対する総合評価である。特定の学習段階において、生徒が身につけている言語知識や技能等の状況を考査することは必要であるが、生徒の総合言語運用能力の評価により一層の重点を置くべきである。例えば短い劇を作って演じたり、モデル例を参照し、イラストの助けを借りて短い物語を語ったり、簡単なメモやカード・日記を書いたりすることを通じて、生徒が身につけた音声・語彙・文法等の程度を考査でき、また「聞く・話す・読む・書く」という技能面における生徒の総合的な状況もそこに反映させることができる。生徒は、演技の中の一挙一動において、彼らの感情態度を表現することができる。コミュニケーション学習で役割を果たす時に、適切であるかどうかという点に、彼らの文化的素養や心理的要素が直接反映されている。困難を克服して、コミュニケーション学習におけるタスクを順調に果たせるかどうかということは、生徒が問題を分析し、解決する能力を判断する尺度となる。

6. 適宜評価結果をフィードバックし、教育過程を調整するよう注意する

教師は、評価が生徒の学習を激励する働きを持つことに、常に注意を払い、適宜教育効果に対して評価とフィードバックを行って、生徒に与える必要がある。同時に、自分の授業の進め方に対して反省する。例えば個々の生徒が学習内容をどれだけ理解しているかということや、学習がいかに進んでいるか、どのような授業モデルや方法が生徒に喜んで受け入れられるか、評価が生徒の自主的な成長を促進させているかどうか、等々である。教師は客観的に分析し、真剣に評価結果を研究し、教育中に存在する問題や、問題が発生する原因を探り出し、個々の生徒の具体的状況に対して、それに応じた判断を下し、解決方法を提出し、絶えず教育を改善していかなければならない。

7. 合理的で適切な評価手段を使用し、実効性を重視する

評価は教育活動の有機的な構成要素であり、また『標準』が実施されたことを保証する重要な手段である。教育の過程において使用される各種の評価方式は簡単で実行しやすいものであるべきで、あまりに煩瑣な評価手順を取るものや、教育時間をあまりに多く消費するものは避けるべきである。

評価活動の質と、評価の言葉の正確さと、評価の時機に注意する必要があり、生徒に不当な評価による心理的負担や倦怠感を生じさせてはならず、また評価が形式的なものになることを防がなければならない。評価の評定・選別の働きを強調し過ぎるのは避け、評価を生徒と教師の自己発展を促進させるために用いるべきである。

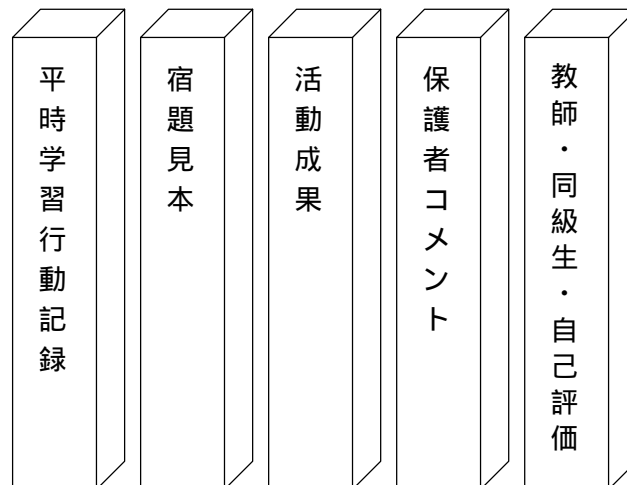
8. 評価は『標準』が規定する課程目標を拠り所とすべきである

生徒の学習に対する評価は、『標準』が規定する課程目標、及びそれに応じた級別の教育目標を拠り所とすべきである。一、二級の評価は地方と学校が実施し、形成性評価を主とする。三級の評価は国家、省市の教育主管部門の指導のもとで実施する必要がある。選抜試験は『標準』の要求に依拠し、当地の状況と関連づけ、どの級で行うか決定してから、試験の要求を定めなければならない。

(二) 評価事例

1. 生徒学習記録事例

学習記録は形成性評価の主要形式である。生徒自身が、学習記録を形作る主要な関係者・保管者である。学習記録は以下の内容を含んでいる。



生徒の平時の学習行動の記録者は教師である。内容は、生徒の教室における表現（例えばテキスト本文を朗読する、問題に回答する、ロールプレイを演じる等）や課外活動等に対する、教師の評価である。評価の形式は定性評価を主とする。

「宿題見本」は、通常生徒自身がかつとも満足しているものを収録し、また比較的特色のあるものでもよい。場合によってはうまく行かなかったものも多少収録して、成長の過程がわかるようにしてもよい。

「活動成果」は活動報告やカード・書道の作品・自作の短い物語・収集資料・工作・写真・絵画等を含めることができる。

「保護者コメント」は主として生徒の家の保護者が生徒の家庭内の学習状況を観察した記録である。

「教師・同級生・自己評価」の評価者は教師でもよく、また教師の指導下の同級生間の相互評価、あるいは自己評価でもよい。評価の内容は学習の態度、方法、効果等の多方面の事柄を含む。

2. 自己評価事例（学習興味評価）

	☺	☹	☹
日本語の歌を聞く			
日本語で先生の問題に答える			
日本語の短い物語を読む			
単語の書き取り			
先生の日本語を聞く			
動物に関する物語を閲読する			
本文を写す			
日本の童謡			
友達と一緒に日本語で会話する			
日本語の短い物語を聞く			
父母に日本語のテキストを読んであげる			
日本のことわざを写す			

学習興味の調査は、生徒の年齢的特徴を考慮する必要がある。上の調査例は比較的年齢が低い生徒に適する。選択された☺☹☹の数によって、日本語学習への興味の程度がわかり、興味の所在を具体的に表現できる。教師は様々な生徒の状況に対して、それに応じた啓発・指導を行うことができる。

3. コミュニケーション活動評価事例（他者評価自己評価兼用）

(1) 口頭表現活動採点表

報告者姓名: _____	採点者姓名: _____	日付: _____	クラス: _____		
スピーチ題名: _____					
私は報告の内容を聴いてよく理解できました。					
私は報告の内容を聴いて大体理解できました。					
私は報告の内容を聴いて理解できませんでした。					
私はこの報告は成功だと思う、なぜなら _____					
報告者が改善すべきところがある: _____					

5（優秀）から1（改善を要する）までの順序によって報告に点をつける					
キーワードを使っている	5	4	3	2	1
図を使用して述べている	5	4	3	2	1
原稿をあまり見ない	5	4	3	2	1
長さが適当である	5	4	3	2	1
自分の観点をはっきり述べている	5	4	3	2	1

(2) 日本語で物語を語る（定性叙述）

物語話者姓名: _____		評価日付: _____	
評価内容	とてもよい	よい	努力を続けよう
準備作業に参加			
積極的に物語の役割を引き受けている			
討論の過程で進んで発言している			
グループ討論の過程で同級生とよく協力できる			
物語の内容に想像力が豊富にみられる			
物語の筋が通っている			
学んだ単語を使用している			
学んだ文型を使用している			
日本語が基本的に正確である			
身振りを使って表現を補っている			
音声とイントネーションが基本的に正確である			
物語の説明が明瞭で分かりやすい			
総合評価: (例) あなたの物語はとても面白く語られていて、想像力も豊富です。日本語の表現が基本的に正確で、実に見事です！日本語で表現するとき、少しぐらいの間違いは気にしないで、学んだ単語と文型をもう少したくさん使うといいですね。			

4. 日本語読解試験案例

子供たちは、小学校では学校給食があるので、全員同じものを食べる。中学生は、母親の作った弁当を学校に持っていきが、東京の一部の公立中学校でも、給食がある。弁当を持ってこないで、学校の売店でサンドイッチなどを買って食べる者も多い。

一まとまりの読解材料に対して、試験で重点とすべきことは色々有り得る。短文中に多少の新出単語やあまりよく知らない表現形式があってもよい。様々なタイプの問題を通して、様々な角度から、生徒が文の前後関係や既習の知識をもとにして、必要な情報を把握させる方法を養成することができる。

問題タイプ1

上の短文を読んで、下の答えの中から正確な答えを選びなさい。

日本の中学生は

- A. 全員昼食を食べます。
- B. 全員弁当を食べます。
- C. 全員弁当を食べません。
- D. 給食を食べない人もいます。

このタイプの問題は比較的簡単であり、生徒はただ「中学生」という中心になる情報を追って行けばよい。一つの項目内容について問うのに適している。例えば語彙・文型・文法知識等である。

問題タイプ2

上の短文を読んで、日本の小中学生が昼食をとる方法を × で答えなさい。

	給食	弁当	その他
小学生		×	×
中学生			

このタイプの問題は、生徒が迅速に情報を捉え、新出単語による障害を排して、文の前後関係をもとにして語義を推測する能力を測るのに適している。

問題タイプ3

下の短文を読んで、空欄に適当な言葉を入れ、全文を完成させなさい。

子供たちは、小学校では学校給食がある A _____、全員同じものを食べる。中学生は、母親の作った弁当を学校に持っていく B _____、東京の一部の公立中学校でも、給食がある。弁当を持ってこないで、学校の売店 C _____、サンドイッチなどを買って食べる者も多い。

答えの提供は以下の各種のようにすればよい。

(1) 選択肢を与える。

(A. より、ので、が B. が、か、から C. に、で、へ)

この種の試験は主として同類語の弁別と、運用能力を測るものである。

(2) まとめて答えを与え、生徒に文の前後関係をもとにして選択させる。(が、で、ので)

この種の試験は主として文章の全体の意味を把握しているかどうか問うものである。これを参考にしてやりかたを考えれば、このような方法を通じて語義や文型の意味、文法的意味の把握等多くの内容を問うこともできる。

三、リソースの開発と利用

リソースを積極的に開発し合理的に利用することが、日本語課程を実施する上で重要な課題の一つとなる。『標準』に規定されている課程内容は基本的要求であり、地方や学校及び教師が創造的に課程を実施するために可能性を与えている。地方と学校は、当地の経済発展のレベルと生徒・保護者の経済的受容能力を踏まえて、実用的で低コスト、かつ物を最大限に利用するという原則に基づく必要がある。そして当地の人文・地理的環境や民族・文化的伝統と関連づけて、その土地の事情に合わせながら、地区・民族と学校の特色を備えた日本語リソースの開発と利用を行い、各自の教育のために有効性を発揮すべきである。

日本語課程の資源には、日本語教材、及び生徒の総合言語運用能力を伸ばすために有効な、その他の学習材料と補助施設が含まれる。日本語教育の特色の一つは、生徒に、可能な限り多様な経路から、様々な方法で日本語に触れながら学習させ、日本語に親近感を持って直接体験しながら運用させていかなければならないということである。

日本語教材は日本語リソースの核心部分である。教育行政部門と学校は生徒に対して、必要な教材（「四、教材の編纂と使用」参照）を提供することを保証しなければならない。合理的かつ有効に教

材を使用するだけでなく、積極的にその他のリソースを開発し利用すべきである。とりわけ新聞雑誌・放送・映像・録音・録画資料・直接観察できる教材や実物・マルチメディアのCD-ROM及び各種の形式のインターネット資源等々である。

豊富なリソースを提供し、教授・学習経路を開拓し、教授・学習方法を更新するために、日本語課程は図書館・LL教室・視聴覚施設等の教育施設を十分に利用する必要がある。教育行政部門と学校は可能な限り条件を整えて、日本語課程のためにこれらの教育施設を提供しなければならない。学校はできるだけ日本語教育のために、テレビやビデオ・コンピュータ・VCD・DVD・マルチメディアの設備を配備し、視聴室を設置して生徒に開放し、生徒の自主的学習のために条件を整えるべきである。

日本語課程の資源を開発する時、情報技術とインターネットを十分に利用する必要がある。インターネット上にある各種の媒体資源、また特に日本語教育のためのホームページが、各段階の日本語教育に豊富な資源を提供している。それ以外に、コンピュータとインターネットは、個性に合わせた学習と自主学習のための条件も作り出している。コンピュータとインターネットを通じて、生徒は、自分の需要に基づいて学習内容と学習方法を選択できる。互いに情報を交換できる機能をもったコンピュータとインターネットは、また適宜生徒のために情報をフィードバックして提供することができる。更に、コンピュータとインターネットは、生徒の間で相互に援助し、学習資源を分かち合うことを可能にした。したがって、各級の教育行政部門と、学校、教師は、積極的に条件を整え、生徒が、コンピュータとインターネットを利用できるようにして、需要に応じて学習できるようにすべきである。条件の揃っている学校は、自校の日本語教育のためのホームページを作成して、インターネットの課程を開設し、学習の開放性と柔軟性をいっそう強めてもよい。

学校は生徒がリソースの開発に参加することを奨励し、支援すべきである。生徒を組織して学年やクラス用の図書コーナーや本棚を作らせてもよい。生徒がクラス新聞や壁新聞を制作することを奨励し、学習資源を交流させることを奨励する。生徒の生活経験は無形のリソースである。初級中学生は豊富な生活経験を持っている。例えば、一部の生徒は日本のアニメーションや映画・テレビドラマ、あるいは中国公演等を見たことがあり、ある生徒は日本の生徒と直接交流があったり、日本を訪問したことがある。教師は教育の過程において、これらの無形の資源を充分利用し、相互交流を通じて、生徒の視野を広げ、日本語学習への興味を引き起こし、教育の質を高めなければならない。生徒が母国語を運用した経験も一種の無形のリソースである。とりわけ中国語と日本語は共に漢字を使用しており、教師は生徒の漢字知識を充分利用し、半分の労力で二倍の教育効果を得るようにすべきである。少数民族（朝鮮族・蒙古族）地区の教師は、朝鮮語・蒙古語と日本語の類似点を十分に利用して授業効果を高め、生徒の学業の負担を軽減しなければならない。

リソースの開発と利用にあたっては、当地の経済発展のレベルと共に、生徒と保護者の経済的受容能力を考慮する必要がある。多くの段階、多くのタイプの日本語リソースを開発し、様々な段階の需要を満足させるよう、注意すべきである。リソースの多様性を追求するために、生徒の経済的負担を増加させることはできないし、リソースの浪費をもたらすことはなおのことできない。学校はリソースのために有効な管理体系を作る必要がある。既に備わっているリソースは十分に利用し、リソースが放置されているような状態はあってはならない。絶えずリソースの更新と補充を行うべきである。

リソースを開発し利用する過程において、粗製濫造された補助教材を編纂・販売・使用することは絶対してはならない。学校と教師が、非合法に出版された模擬試験問題や、練習問題等の材料を購入したり、生徒に勧めたりすることは厳禁する。

四、教材の編纂と使用

教材は教育内容の重要な担い手となる。日本語教材の編纂は、『標準』の基本理念と課程目標・内容標準を拠り所として、生徒の総合言語運用能力の養成を最優先すべきである。学習のために設計した編纂方針に基づいて、可能な限り種々の学習段階にある生徒の、様々な要求を満足させ、教師と教材の指導によって、生徒を、主体的に教育の全過程に参加させる。そして総合的運用の段階で認知・模倣・実践させて、その上で全面的な成長と生涯教育のための基礎を確立させるものである。

1. 教科書は『標準』が設定した話題をもとにして、できるだけ日本語らしい、現代的感覚を具えた言語材料を選択し、生徒を主体とした、現実のコミュニケーションに近い学習活動を、入念に計画する必要がある。本文の内容は生徒の実際の生活に近く、適当な難度のものでなければならない。
2. 外国語学習の法則に基づいて教材を編纂することが必要であり、内容は易しいものから難しいものへ、単純なものから複雑なものへと進むべきである。学習過程を明らかにすることと、学習方法を提示することが重視され、それによって言語材料を選択し、本文・練習・活動を配列する必要がある。そして言語知識・言語技能・文化的素養・感情態度及び学習ストラテジー等の要素を互いに融合させ、生徒が自分の知識体系を構築するのに便利なものでなければならない。
3. 教材の内容を選択する時は、国外の教材に全面的に頼ることは避けるべきである。国外の教材の優れた点を十分に取り入れながら、我国の実情と関連づけて、特色のある教材を編集しなければならない。
4. 視覚・聴覚的効果をより充実させ、可能な限り生き生きとした挿図を通じて、活動過程と言語知識が示されるようにし、字による提示は少なくして、生徒が外国語で考えるように徐々に導いていく必要がある。
5. 様々な地域や背景(農村と都市、少数民族の言語環境等)のもとにいる生徒の教材に対する様々な需要を十分に考慮すべきである。
6. 情報技術等の現代科学技術が教材内容に与える影響を重視し、教材は、生徒に自分で調査・発見・質問をさせて、視野を広げさせていくような編集・配列をする必要がある。可能な条件の下では、付属マルチメディア教材を開発する。
7. 教材は、教師が実際の教育の必要に基づいて、内容を適当に取捨しやすいようにし、『標準』に規定された内容以外のものをある程度提供して、余力のある生徒の学習に役立つようにしなければならない。
8. 教材の種類はできるだけ多様化し、教科書以外に、教師用指導書や練習帳・掛け図・カード・テープ及びビデオ・マルチメディア CD-ROM・付属の読み物等も用意すべきである。

教材の使用過程において、教師は実際の需要に応じて、教材内容や構成・授業法等を適当に取捨・調整してよい。例えば、教材内容や学習活動・授業モデル・授業方法を適当に調整する。日本語教育の特徴に応じて、学校は外国の教授資料を適当に選んで使用し、教室の授業内容を補って豊富なものにしてよい。

ある程度の時間、教材を使用した後、教師は適当な時期に総括し、教材の使用状況を分析しなければならない。主として以下の方面が含まれる。

- (1) 予定していた授業目標に到達しているかどうか。
- (2) 授業効果を高める上で有効であるかどうか。
- (3) 教師と生徒の満足度について。

- (4) 使用過程において明らかになった、教材の長短所。
- (5) この教材を継続して使用する場合、どのような調整が必要か。
- (6) 補助教材の使用が必要かどうか。

付 録

一、話題項目

領域	基本話題	内容提示
生活	個人情報	国籍、名前、年齢、地域 家族及び職業
	日常生活	年月日、曜日、時間 一日の生活
	衣食住交通	服 食事、野菜、果物、飲み物 家、部屋、家具、日用品、文房具 交通機関、道路
	健康	体、病気
	交際	友達
	買物	店、品物、値段、お金
	趣味・嗜好	アニメ、漫画 映画、音楽、テレビ スポーツ
	計画・理想	休みの計画、夢
学校	施設	教室、図書室、運動場
	クラス	先生、同級生、当番、掃除
	学習	時間割、授業、宿題
	課外活動	遠足、見学、運動会、試合
	その他	夏休み、冬休み
自然	環境	山、海、森林
	季節、気候	季節、天気
	動植物	動物、植物、ペット
社会	文化施設	公園、美術館、博物館
	祝日	お正月、子供の日
	科学技術	コンピュータ、インターネット
	世界地図	アジア、世界、中国、日本
	有名人	スポーツ選手、芸術家
	その他	童話

注:「話題」とは、それをめぐって、授業内外の学習活動を展開するためのテーマであり、生徒が日本語による会話や文章でコミュニケーションを行う際に触れる具体的な内容である。
上の表の中の第三列は話題に関係する内容(日本語)を提示し、学習活動を実施する時に選択して用いられるようにした。

二、コミュニケーション用語

表 1

時候の挨拶	<ul style="list-style-type: none"> • おはようございます。 / こんにちは。 / こんばんは。 • 明けましておめでとうございます。
歓迎	<ul style="list-style-type: none"> • こんにちは
紹介	<ul style="list-style-type: none"> • はじめまして、～中学校の～です。どうぞよろしく（お願いします）。 • 同じクラスの～です。 • 友達の～君です。
感謝	<ul style="list-style-type: none"> • （どうも）ありがとう（ございます） • ありがとうございました。 いいえ。
お詫び	<ul style="list-style-type: none"> • すみません。 • ごめんなさい。 いいえ。
祝賀	<ul style="list-style-type: none"> • （お誕生日）おめでとう（ございます）
別れ	<ul style="list-style-type: none"> • さようなら。 / またあした。
食事	<ul style="list-style-type: none"> • どうぞ。 • いただきます。 • ご馳走さま（でした） • おいしいです。 • おなかいっぱいです。
食堂・レストラン	<ul style="list-style-type: none"> • 何にしますか。 • わたしは～にします。 • ラーメン（二つ）ください。
買物	<ul style="list-style-type: none"> • いらっしゃいませ。 • すみません、これはいくらですか。 • これはどうですか。 • これ、ください。
贈答	<ul style="list-style-type: none"> • これ、プレゼントです。どうぞ。 （どうも）ありがとうございます。
約束	<ul style="list-style-type: none"> • きょうの午後はあいていますか。 • 12時に駅で会いましょう。 はい、分かりました。
職員室	<ul style="list-style-type: none"> • 失礼します。（入る時） はい、どうぞ。 • 失礼します。（部屋を出る時）
訪問	<ul style="list-style-type: none"> • ごめんください。 はい。 • お邪魔します。 • では、これで失礼します。 • また来てください。

時間・場所を問う	<ul style="list-style-type: none"> • すみません。～はどこですか。 • 出発は何時ですか。 / 何時からですか。
年賀状・書簡・電子メール	<ul style="list-style-type: none"> • きれいな年賀状、どうもありがとう。 • お手紙ありがとうございました。 • お元気ですか。 • ではまた。
身体の不調	<ul style="list-style-type: none"> • 頭が痛いです。 • 熱があります。 • 風邪を引きました。

表 2

会話 ストラテジー	話しかける	<ul style="list-style-type: none"> • すみません。 • あのう。
	会話を終える	<ul style="list-style-type: none"> • それでは、……。
	応答・同意	<ul style="list-style-type: none"> • はい。 • そうですか。 • ええ、そうですね。
情報収集	教えを請う	<ul style="list-style-type: none"> • これは日本語で何と言いますか。 • この漢字、どう読みますか。 • すみません、もう一度お願いします。 • 近くにスーパーがありますか。
	質問	<ul style="list-style-type: none"> • いつ中国に来ましたか。 • どんなスポーツが好きですか。 • 勉強は忙しいですか。
要求を出す	請求	<ul style="list-style-type: none"> • お願いします。 • ～をください。 • ちょっと待ってください。 • ～を貸してください。 はい、どうぞ。
	誘う	<ul style="list-style-type: none"> • いっしょに行きませんか。 ええ、行きましょう。 • 今度わたしの家へ来ませんか。 はい、ありがとうございます。
	提案	<ul style="list-style-type: none"> • ～はどうですか。 (それは)いいですね。 • ～で行きましょう。 ええ、そうしましょう。

感情態度	励まし	• 頑張って。/頑張れ!
	禁止	• ~ないでください。
	警告	• 危ない!
	称賛	• (その色は)いいですね。 • すごいですね。 • お上手ですね。 • すばらしいですね。
	喜び	• うれしい。 • よかった。
	驚き	えっ? ほんとう? びっくりしました。
	同情	かわいそうですね。
感情態度	心配・安心	どうしましょう。 大丈夫ですか。 ああ、よかった。
	懷疑	そうですか。(↗) それは本当ですか。

三、音声項目

(一) 仮名(平仮名・片仮名)とローマ字

表1 清音(五十音図)

あ	ア	a	い	イ	i	う	ウ	u	え	エ	e	お	オ	o
か	カ	ka	き	キ	ki	く	ク	ku	け	ケ	ke	こ	コ	ko
さ	サ	sa	し	シ	shi	す	ス	su	せ	セ	se	そ	ソ	so
た	タ	ta	ち	チ	chi	つ	ツ	tsu	て	テ	te	と	ト	to
な	ナ	na	に	ニ	ni	ぬ	ヌ	nu	ね	ネ	ne	の	ノ	no
は	ハ	ha	ひ	ヒ	hi	ふ	フ	fu	へ	ヘ	he	ほ	ホ	ho
ま	マ	ma	み	ミ	mi	む	ム	mu	め	メ	me	も	モ	mo
や	ヤ	ya	(い	イ	i)	ゆ	ユ	yu	(え	エ	e)	よ	ヨ	yo
ら	ラ	ra	り	リ	ri	る	ル	ru	れ	レ	re	ろ	ロ	ro
わ	ワ	wa	(い	イ	i)	(う	ウ	u)	(え	エ	e)	を	ヲ	o
ん	ン	n												

注: 表中の仮名の横の並びを「行(ぎょう)」、縦の並びを「段(だん)」という。

表2 濁音と半濁音

が	ガ	ga	ぎ	ギ	gi	ぐ	グ	gu	げ	ゲ	ge	ご	ゴ	go
ざ	ザ	za	じ	ジ	ji	ず	ズ	zu	ぜ	ゼ	ze	ぞ	ゾ	zo
だ	ダ	da	ぢ	ヂ	ji	づ	ヅ	zu	で	デ	de	ど	ド	do
ば	バ	ba	び	ビ	bi	ぶ	ブ	bu	べ	ベ	be	ぼ	ボ	bo
ぱ	パ	pa	ぴ	ピ	pi	ぷ	プ	pu	ぺ	ペ	pe	ぽ	ポ	po

表3 拗音

きゃ	キャ	kya	きゅ	キュ	kyu	きょ	キョ	kyo
しゃ	シャ	sha	しゅ	シュ	shu	しょ	ショ	sho
ちゃ	チャ	cha	ちゅ	チュ	chu	ちょ	チョ	cho
にゃ	ニャ	nya	にゅ	ニュ	nyu	にょ	ニョ	nyo
ひゃ	ヒャ	hya	ひゅ	ヒュ	hyu	ひょ	ヒョ	hyo
みゃ	ミャ	mya	みゅ	ミュ	myu	みょ	ミョ	myo
りゃ	リャ	rya	りゅ	リュ	ryu	りょ	リョ	ryo
ぎゃ	ギャ	gya	ぎゅ	ギュ	gyu	ぎょ	ギョ	gyo
じゃ	ジャ	ja	じゅ	ジュ	ju	じょ	ジョ	jo
びゃ	ビャ	bya	びゅ	ビュ	byu	びょ	ビョ	byo
ぴゃ	ピャ	pya	ぴゅ	ピュ	pyu	ぴょ	ピョ	pyo

(二) 音素

1. 母音
2. 子音
3. 半母音
4. 特殊音: 撥音 (N)、促音 (Q)、長音 (R)

(三) 音節とモーラ

1. 短音節 1 拍
2. 長音節 2 拍

(四) 母音の無声化

(五) 声調

1. 平板型
2. 頭高型
3. 中高型
4. 尾高型

(六) イントネーション

1. 平調
2. 上昇調
3. 下降調

四、語彙項目

(一) 語彙表

凡例

I 見出し語

1. 本表には初級中学段階で身につけるべき基本語彙を 800 語収録した。見出し語は日本語の五十音順に従って配列している。
2. 外来語は片仮名で表示した。
3. 一つの語が二つの語形を持つときは、その間を「/」で分けた。
4. 品詞は略語で表示した。一つの語に二種類の品詞があるときは、その間を「・」で分けた。
5. 本表はただ、初級中学段階で必要とされる語義だけを並べた。近似した二つの語義は、その間を「、」で分け、同義でないものは、その間を「;」で分けた。

II 符号

1. 内の数字は当該語のアクセントを示している。NHK 編『日本語発音声調辞典』(第五版)に基づき、日本の三省堂『新明解国語辞典』の標注方式を採用した。
2. []は当該語で通常用いられる日本漢字による表記の形を示している。主として日本の『三省堂国語辞典』(第五版)に基づいている。
3. ()は当該語の品詞を示している。具体的には以下のことを説明している。

名	名詞(代名詞と数詞、助数詞を含む)	自	自動詞
副	副詞	他	他動詞
接	接続詞	連体	連体詞
形	伝統的な文法用語の「形容詞」と「形容動詞」を含む。		

あ

ああ	◎		(副)	那样
あい	①	[愛]	(名・他)	爱
あいさつ	①		(名・自)	寒暄, 问候
あいだ	◎	[間]	(名)	之间, 期间
あいて	③	[相手]	(名)	对方
あう	①	[会う]	(自)	会面, 碰见
あおい	②	[青い]	(形)	蓝的; 绿的
あかい	◎	[赤い]	(形)	红的
あかるい	◎	[明るい]	(形)	明亮
あき	①	[秋]	(名)	秋天
あく	◎	[開く]	(自)	开
あける	◎	[開ける]	(他)	打开, 开启
あげる	◎	[上げる]	(他)	举, 抬, 提高

あげる	㊦		(他)	给(他人)
あさ	①	[朝]	(名)	早晨
あさい	㊦	[浅い]	(形)	浅的; 淡的
あさって	②	[明後日]	(名)	后天
あし	②	[足]	(名)	脚, 腿
あじ	㊦	[味]	(名)	味道, 口味
アジア	①		(名)	亚洲
あした	③	[明日]	(名)	明天
あせ	①	[汗]	(名)	汗
あそこ	㊦		(名)	那儿, 那里
あそぶ	㊦	[遊ぶ]	(自)	玩
あたたかい	④	[暖かい]	(形)	暖和, 温暖
あたま	③	[頭]	(名)	头, 头脑
あたらしい	④	[新しい]	(形)	新的
あたる	㊦	[当たる]	(自)	(光线)照射; 碰上; 猜中
あちら / あっち	㊦		(名)	那边; 那位
あつい	㊦	[厚い]	(形)	厚的
あつい	②	[暑い]	(形)	(天气)热
あつい	②	[熱い]	(形)	(东西)热
あつまる	③	[集まる]	(自)	集合, 集中
あつめる	③	[集める]	(他)	收集, 汇集
あと	①	[後]	(名)	后边, 之后
あなた	②		(名)	你
あに	①	[兄]	(名)	哥哥
あね	㊦	[姉]	(名)	姐姐
あの	㊦		(连体)	那, 那个
アパート	②		(名)	住宅楼
あぶない	③	[危ない]	(形)	危险, 靠不住
あまい	㊦	[甘い]	(形)	甜的
あまり	㊦		(副)	(不)太, (不)很
あめ	①	[雨]	(名)	雨
あらう	㊦	[洗う]	(他)	洗
ある	①		(自)	(物)有, 在
ある	①		(连体)	某(个)
あるく	②	[歩く]	(自)	步行, 走
あれ	㊦		(名)	那, 那个
あんな	㊦		(连体)	那样的
い				
いい / よい	①		(形)	好, 好的

いう	①	[言う]	(他)	说
いえ	②	[家]	(名)	房屋; 家
いく	①	[行く]	(自)	去
いくつ	①		(名)	几个, 多少
いくら	①		(副)	多少钱
いけ	②	[池]	(名)	池塘
いし	②	[石]	(名)	石头
いしゃ	①	[医者]	(名)	医生
いす	①		(名)	椅子
いそがしい	④	[忙しい]	(形)	忙
いたい	②	[痛い]	(形)	疼
いち	②	[一]	(名)	一
いちばん	①		(副)	最
いつか	①	[五日]	(名)	五日
いっしょに	①		(副)	一起
いつつ	②	[五つ]	(名)	五个
いっぱい	①		(副)	满
いつも	①		(副)	总是
いなか	①	[田舎]	(名)	乡下
いぬ	②	[犬]	(名)	狗
いま	①	[今]	(名)	现在
いみ	①	[意味]	(名)	意思, 意义
いもうと	④	[妹]	(名)	妹妹
いや	②	[嫌]	(形)	讨厌, 厌烦
いる	①	[要る]	(自)	需要
いる	①		(自)	(人、动物等)有, 在
いれる	①	[入れる]	(他)	放入; 算入
いろ	②	[色]	(名)	颜色, 色彩
いろいろ	①		(形・副)	各种各样
う				
うえ	①	[上]	(名)	上, 上面
うえる	①	[植える]	(他)	种植
うける	②	[受ける]	(他)	接受, 承受
うし	①	[牛]	(名)	牛
うしろ	①	[後ろ]	(名)	后面, 背后
うすい	①	[薄い]	(形)	薄的, 淡的
うた	②	[歌]	(名)	歌曲
うたう	①	[歌う]	(他)	唱歌
うち	①	[内]	(名)	里面
うつ	①	[打つ]	(他)	打, 击打

うつくしい	④	[美しい]	(形)	美丽的
うまれる	①	[生まれる]	(自)	出生
うみ	①	[海]	(名)	海
うら	②	[裏]	(名)	背面, 反面
うる	①	[売る]	(他)	卖, 出售
うるさい	③		(形)	吵闹, 讨厌
うれしい	③		(形)	高兴
うわぎ	①	[上着]	(名)	上衣
うんどう	①	[運動]	(名)	运动
え				
え	①	[絵]	(名)	图画
えいが	①	[映画]	(名)	电影
えいご	①	[英語]	(名)	英語
えき	①	[駅]	(名)	火车站, 地铁站
えらぶ	②	[選ぶ]	(他)	选择, 挑选
えん		[~円]	(名)	~日元
えんぴつ	①	[鉛筆]	(名)	铅笔
お				
おいしい	③		(形)	好吃
おおい	①	[多い]	(形)	多, 许多
おおきい	③	[大きい]	(形)	大的
おおきな	①	[大きな]	(连体)	大的
おかあさん	②	[お母さん]	(名)	妈妈, 母亲
おかし	②	[お菓子]	(名)	点心, 糕点
おかね	③	[お金]	(名)	钱, 钱财
おきる	②	[起きる]	(自)	起床, 起来
おく	①	[置く]	(他)	放置, 搁下
おくる	①	[送る]	(他)	寄送
おくれる	①	[遅れる]	(自)	迟到, 落后
おこる	②	[怒る]	(自)	生气
おじいさん	②		(名)	祖父, 外祖父
おしえる	①	[教える]	(他)	教, 告诉
おそい	①	[遅い]	(形)	慢, 晚
おちゃ	①	[お茶]	(名)	茶, 茶叶
おと	②	[音]	(名)	(物体的) 声音, 声响
おとうさん	②	[お父さん]	(名)	爸爸, 父亲
おとうと	④	[弟]	(名)	弟弟
おとこ	③	[男]	(名)	男人
おととい	③	[一昨日]	(名)	前天

おとし	②	[一昨年]	(名)	前年
おとな	①	[大人]	(名)	大人, 成年人
おどる	①	[踊る]	(自)	跳舞
おなか	①		(名)	肚子
おなじ	①	[同じ]	(形)	相同
おにいさん	②	[お兄さん]	(名)	哥哥
おねえさん	②	[お姉さん]	(名)	姐姐
おばあさん	②		(名)	祖母, 外祖母
おぼえる	③	[覚える]	(他)	记住
おみやげ	①	[お土産]	(名)	礼物, 土特产
おもい	①	[重い]	(形)	重的, 沉重
おもう	②	[思う]	(他)	想, 考虑
おもしろい	④		(形)	有趣
おや	②	[親]	(名)	父(母)亲, 双亲
およく	②	[泳ぐ]	(自)	游, 游泳
おわる	①	[終わる]	(自)	结束
おんがく	①	[音楽]	(名)	音乐
おんな	③	[女]	(名)	女人

か

かい		[～階]	(名)	～层
かい		[～回]	(名)	～回, ～次
がいこく	①	[外国]	(名)	外国
かいしゃ	①	[会社]	(名)	公司
かいだん	①	[階段]	(名)	台阶, 楼梯
かいもの	①	[買い物]	(名・自)	买东西
かいわ	①	[会話]	(名)	会话
かう	①	[買う]	(他)	买
かえす	①	[返す]	(他)	归还, 送还
かえる	①	[帰る]	(他)	回去, 回来
かえる	①	[変える]	(他)	改变, 变换
かお	①	[顔]	(名)	脸, 面孔
かがく	①	[科学]	(名)	科学
かがみ	③	[鏡]	(名)	镜子
かかる	②		(自)	花费(钱、时间等)
かぎ	②		(名)	钥匙; 锁
かく	①	[書く]	(他)	写
かける	②	[掛ける]	(他)	挂; 坐; 打(电话)
かさ	①	[傘]	(名)	伞
かす	①	[貸す]	(他)	借出, 借给(他人)
かず	①	[数]	(名)	数目

かぜ	①	[風邪]	(名)	感冒
かぜ	①	[風]	(名)	风
かぞえる	③	[数える]	(他)	数
かぞく	①	[家族]	(名)	家庭, 家属
かたい	①	[固い]	(形)	硬, 坚实
かたち	①	[形]	(名)	形状
かつ	①	[勝つ]	(自)	胜利
がつ		[~月]	(名)	~月
がっこう	①	[学校]	(名)	学校
かな	①	[仮名]	(名)	假名
かなしい	①	[悲しい]	(形)	悲伤
かのじょ	①	[彼女]	(名)	她
かばん	①		(名)	书包, 手提包
かぶる	②		(他)	戴(帽子)
かべ	①	[壁]	(名)	墙壁
かみ	②	[紙]	(名)	纸
かみ	②	[髪]	(名)	头发
カメラ	①		(名)	照相机
かようび	②	[火曜日]	(名)	星期二
からい	②	[辛い]	(形)	辣; 咸
ガラス	①		(名)	玻璃
からだ	①	[体]	(名)	身体
かりる	①	[借りる]	(他)	借入, 借来
かるい	①	[軽い]	(形)	轻的
かれ	①	[彼]	(名)	他
かわ	②	[川]	(名)	河
かわ(がわ)	①	[側]	(名・后缀 ^{訳注1})	一侧, 方面
かわいい	③		(形)	可爱, 好玩
かわる	①	[変わる]	(自)	变化, 不同
かんがえる	④	[考える]	(他)	思考, 考虑
かんじ	①	[漢字]	(名)	汉字
かんじる	①	[感じる]	(自他)	感觉, 感到
がんばる	③	[頑張る]	(自)	坚持, 努力
き				
き	①	[木]	(名)	树, 木头
き	①	[気]	(名)	意识, 心神
きいろい	①	[黄色い]	(形)	黄的
きく	①	[聞く]	(他)	听; 问

訳注1 接尾語

きこえる	①	[聞こえる]	(自)	听到
きしゃ	②	[汽車]	(名)	火车, 列车
きず	①	[傷]	(名)	伤
きせつ	②	[季節]	(名)	季节
きた	①	[北]	(名)	北, 北方
きたない	③	[汚い]	(形)	脏
きって	①	[切手]	(名)	邮票
きつと	①		(副)	一定
きっぷ	①	[切符]	(名)	票
きのう	②	[昨日]	(名)	昨天
きびしい	③	[厳しい]	(形)	严格, 严厉
きまる	①	[決まる]	(自)	决定
きめる	①	[決める]	(他)	决定
きもち	①	[気持ち]	(名)	心情, 感觉
きゃく	①	[客]	(名)	客人, 顾客
きょう	①	[今日]	(名)	今天
きょうしつ	①	[教室]	(名)	教室
きょうだい	①	[兄弟]	(名)	兄弟姊妹
きょねん	①	[去年]	(名)	去年
きらい	①	[嫌い]	(形)	讨厌
きる	①	[着る]	(他)	穿(衣)
きれい	①		(形)	漂亮; 洁净
きんようび	③	[金曜日]	(名)	星期五
く				
く / きゅう	①	[九]	(名)	九
くうき	①	[空気]	(名)	空气
くさ	②	[草]	(名)	草
くすり	①	[薬]	(名)	药
くだもの	②	[果物]	(名)	水果
くち	①	[口]	(名)	嘴
くつ	②	[靴]	(名)	鞋
くつした	②	[靴下]	(名)	袜子
くに	①	[国]	(名)	国家, 家乡
くび	①	[首]	(名)	脖子
くみ	②	[組]	(名)	小组, 班级
くも	①	[雲]	(名)	云
くもる	②	[曇る]	(自)	(天) 阴
くらい	①	[暗い]	(形)	(光线) 暗, 昏暗
クラス	①		(名)	班级; 等级
くらべる	①	[比べる]	(他)	比较

くる	①	[来る]	(自)	来
くるしい	③	[苦しい]	(形)	痛苦, 艰难
くるま	①	[車]	(名)	车, 小轿车
くれる	①		(他)	给(自己)
くろい	②	[黒い]	(形)	黑的
くん		[~君]	(后缀)	多用于称呼同辈、晚辈男子

け

ケーキ	①		(名)	西式蛋糕
ゲーム	①		(名)	游戏
けしき	①	[景色]	(名)	景色
けす	①	[消す]	(他)	关(电器等); 抹去
けっして	①	[決して]	(副)	决(不)
けっせき	①	[欠席]	(名·自)	缺席
げつようび	③	[月曜日]	(名)	星期一
けれども	①		(接)	可是
けんか	①		(名·自)	争吵, 打架
げんかん	①	[玄関]	(名)	门厅
げんき	①	[元気]	(形)	健康, 有精神

こ

こ	①	[子]	(名)	小孩子, 子女
ご	①	[五]	(名)	五
ご		[~語]	(后缀)	~语
ご		[~後]	(后缀)	(以)后
こい	①	[濃い]	(形)	浓的
こう	①		(副)	这样, 如此
こうえん	①	[公園]	(名)	公园
こうじょう	③	[工場]	(名)	工厂
こえ	①	[声]	(名)	(人、动物等的)声音
こおり	①	[氷]	(名)	冰
こくばん	①	[黒板]	(名)	黑板
ここ	①		(名)	这里, 这儿
ごご	①	[午後]	(名)	下午
ここのか	①	[九日]	(名)	九日
ここのつ	②	[九つ]	(名)	九个
こころ	②	[心]	(名)	心, 心地
ごぜん	①	[午前]	(名)	上午
こたえる	③	[答える]	(自)	回答
ごちそう	①		(名)	好吃的饭菜

こちら / こっち	㊦		(名)	这边; 这位
コップ	㊦		(名)	杯子
こと	㊲	[事]	(名)	事情
とし	㊦	[今年]	(名)	今年
ことば	㊳	[言葉]	(名)	话, 词语, 语言
こども	㊦	[子供]	(名)	孩子, 儿童
この	㊦		(连体)	这, 这个
ごはん	㊱	[ご飯]	(名)	饭, 米饭
ごみ	㊲		(名)	垃圾
こむ	㊱	[込む]	(自)	拥挤
こめ	㊲	[米]	(名)	大米
これ	㊦		(名)	这, 这个
これから	㊦		(名)	今后
ころ(ごろ)	㊱		(名)	大约…时候
こわい	㊲	[怖い]	(形)	可怕, 让人害怕
こわれる	㊳	[壊れる]	(自)	毁坏, 破损
こんげつ	㊦	[今月]	(名)	这个月
こんしゅう	㊦	[今週]	(名)	这星期
こんど	㊱	[今度]	(名)	下次; 这回
こんな	㊦		(连体)	这样的
さ				
さい		[~歳]	(名)	~岁
さいふ	㊦	[財布]	(名)	钱包
さがす	㊦	[探す]	(他)	寻找
さかな	㊦	[魚]	(名)	鱼, 鱼类
さき	㊦	[先]	(名)	先
さく	㊦	[咲く]	(自)	(花)开
さくら	㊦	[桜]	(名)	樱花
さす	㊱	[指す]	(他)	指
さそう	㊦	[誘う]	(他)	约请
さつ		[~冊]	(名)	~册
サッカー	㊱		(名)	足球
さっき	㊱		(副)	刚才
ざっし	㊦	[雑誌]	(名)	杂志
さとう	㊲	[砂糖]	(名)	白糖
さむい	㊲	[寒い]	(形)	寒冷
さら	㊦	[皿]	(名)	碟子, 盘子
さん	㊦	[三]	(名)	三
さん			(后缀)	用于亲切的敬称
さんせい	㊦	[賛成]	(名・自)	赞成, 赞同

し

し/よん	①	[四]	(名)	四
じ		[~時]	(名)	~时, ~点
しあい	①	[試合]	(名)	(球类) 比赛
しお	②	[塩]	(名)	盐, 食盐
しかし	②		(接)	但是, 可是
じかん	①	[時間]	(名)	时间, 小时
しけん	②	[試験]	(名)	考试, 测验
しごと	①	[仕事]	(名)	工作, 职业
じしょ	①	[辞書]	(名)	词(辞)典
しずか	①	[静か]	(形)	安静
した	①	[下]	(名)	下, 下面
したしい	③	[親しい]	(形)	亲切
しち/なな	②①	[七]	(名)	七
しつもん	①	[質問]	(名・自)	提问
しつれい	②	[失礼]	(名・自)	告辞, (谦词) 失礼
じてんしゃ	②	[自転車]	(名)	自行车
じぶん	①	[自分]	(名)	自己, 自身
しま	②	[島]	(名)	岛屿
しめる	②	[閉める]	(他)	关闭
しゃしん	①	[写真]	(名)	照片
シャツ	①		(名)	衬衫
じゃま	①	[邪魔]	(名・他)	打扰
じゅう	①	[十]	(名)	十
しゅうかん		[~週間]	(名)	~周, ~星期
ジュース	①		(名)	果汁
じゅぎょう	①	[授業]	(名)	上课
しゅくだい	①	[宿題]	(名)	课外作业
しゅっせき	①	[出席]	(名・自)	出席
しゅっぱつ	①	[出発]	(名・自)	出发
しゅみ	①	[趣味]	(名)	爱好
しょうかい	①	[紹介]	(名・他)	介绍
しょうがつ	④	[正月]	(名)	新年
じょうず	③	[上手]	(形)	擅长, 拿手
じょうぶ	①	[丈夫]	(形)	结实, 健康
しょくじ	①	[食事]	(名)	吃饭
しょくどう	①	[食堂]	(名)	食堂
しらせる	①	[知らせる]	(他)	告知
しらべる	③	[調べる]	(他)	调查, 查找
しる	①	[知る]	(他)	知道
しろい	②	[白い]	(形)	白的

じん		[~人]	(后缀)	~人
しんせつ	①	[親切]	(名・形)	热心, 热情
しんぶん	②	[新聞]	(名)	报纸
す				
すいえい	②	[水泳]	(名)	游泳
すいようび	③	[水曜日]	(名)	星期三
すう	②	[吸う]	(他)	吸
スーパー	①		(名)	超市
スカート	②		(名)	裙子
すき	②	[好き]	(形)	喜欢, 爱好
すぎる	②	[過ぎる]	(自)	过去, 经过
すく	②		(自)	空
すぐ	①		(副)	马上
すくない	③	[少ない]	(形)	少
すこし	②	[少し]	(副)	一点儿
すずしい	③	[涼しい]	(形)	凉爽
ずっと	②		(副)	一直; …得多
すてる	②	[捨てる]	(他)	扔掉
すばらしい	④		(形)	非常好
スポーツ	②		(名)	(体育) 运动
ズボン	②		(名)	裤子
すむ	①	[住む]	(自)	住
する	②		(自他)	做
すわる	②	[座る]	(自)	坐
せ				
せいかつ	②	[生活]	(名・自)	生活
せいせき	②	[成績]	(名)	成绩
せいと	①	[生徒]	(名)	中学生
せかい	①	[世界]	(名)	世界
せき	①	[席]	(名)	座位
せまい	②	[狭い]	(形)	狭窄
せわ	②	[世話]	(名)	照料
せん	①	[千]	(名)	一千
せんげつ	①	[先月]	(名)	上个月
せんしゅう	②	[先週]	(名)	上星期
せんせい	③	[先生]	(名)	老师; 大夫
ぜんぜん	②		(副)	完全
せんたく	②	[洗濯]	(名・他)	洗衣服
ぜんぶ	①	[全部]	(名)	全部, 都

そ

そう	①		(副)	那样
そうじ	①	[掃除]	(名・他)	打扫, 扫除
そこ	①		(名)	那儿, 那里
そして	①		(接)	然后, 而且
そちら / そっち	①		(名)	那边; 那位
そつぎょう	①	[卒業]	(名・自)	毕业
そと	①	[外]	(名)	外面
その	①		(连体)	那, 那个
そば	①		(名)	旁边, 附近
そら	①	[空]	(名)	天空
それ	①		(名)	那, 那个
それから	①		(接)	然后, 还有
それで	①		(接)	因此
そんな	①		(连体)	那样的

た

だい		[第 ~]	(前缀 ^{訳注2})	第 ~
だい		[~ 台]	(名)	~ 辆, ~ 台
たいいく	①	[体育]	(名)	体育
だいじょうぶ	③	[大丈夫]	(形)	不要紧
たいせつ	①	[大切]	(形)	要紧, 重要
だいどころ	①	[台所]	(名)	厨房
たいへん	①		(副)	非常, 很
たかい	②	[高い]	(形)	高的, (价) 贵
だから	①		(接)	因此, 所以
たくさん	①		(副)	很多
タクシー	①		(名)	出租车
だす	①	[出す]	(他)	取出, 寄 (信)
たすける	③	[助ける]	(他)	帮助
ただしい	③	[正しい]	(形)	正确, 正当
たち		[~ 達]	(后缀)	~ 们
たつ	①	[立つ]	(自)	站立; 出发
たてもの	②	[建物]	(名)	房屋, 建筑物
たてる	②	[建てる]	(他)	建造
たとえば	②	[例えば]	(副)	例如
たのしい	③	[楽しい]	(形)	快乐, 愉快
たのむ	②	[頼む]	(他)	请求, 委托
たぶん	①		(副)	大概

たべもの	③	[食べ物]	(名)	食物
たべる	②	[食べる]	(他)	吃
たまご	②	[卵]	(名)	蛋
だめ	②		(形)	不行，白费
だれ	①		(名)	谁
たんじょうび	③	[誕生日]	(名)	生日
だんだん	①		(副)	渐渐地

ち

ちいさい	③	[小さい]	(形)	小的
ちいさな	①	[小さな]	(连体)	小的
ちかい	②	[近い]	(形)	近的；近似
ちがう	①	[違う]	(自)	不同；不对
ちかく	②	[近く]	(名)	附近
ちから	③	[力]	(名)	力，力量
ちず	①	[地図]	(名)	地图
ちち	②	[父]	(名)	爸爸
ちawan	①	[茶碗]	(名)	碗
ちゅうごく	①	[中国]	(名)	中国
ちようど	①		(副)	整，正好
ちよっと	①		(副)	有点儿，一会儿

つ

ついたち	④	[一日]	(名)	一日
つかう	①	[使う]	(他)	使用
つかれる	③	[疲れる]	(自)	疲劳
つき	②	[月]	(名)	月亮
つぎ	②	[次]	(名)	下次，下面
つく	①	[着く]	(自)	到达
つく	①	[付く]	(自)	随着，带有
つくえ	①	[机]	(名)	书桌
つくる	②	[作る]	(他)	做，制作
つける	②	[付ける]	(他)	安上，带上
つたえる	①	[伝える]	(他)	传达，转告
つづく	①	[続く]	(自)	连续，持续
つづける	①	[続ける]	(他)	继续，连续
つまらない	③		(形)	每意思；不值钱
つめたい	①	[冷たい]	(形)	冷的，冷淡
つよい	②	[強い]	(形)	强，强壮，强烈

て				
て	①	[手]	(名)	手, 臂
テープ	①		(名)	带, 录音(像)带
でかける	②	[出かける]	(自)	外出, 出门
てがみ	②	[手紙]	(名)	信
できる	②		(自)	会, 发生
テスト	①		(名)	测验, 测试
てつだう	③	[手伝う]	(他)	帮助, 帮忙
デパート	②		(名)	百货商店
でる	①	[出る]	(自)	出, 来到
テレビ	①		(名)	电视
てん	②	[点]	(名)	点; (得)分
てんき	①	[天気]	(名)	天气, 好天气
でんき	①	[電気]	(名)	电, 电力
でんしゃ	②	[電車]	(名)	电车, 电力机车
でんわ	②	[電話]	(名・他)	电话
と				
ど		[~度]	(名)	~回, ~次
ドア	①		(名)	房门
トイレ	①		(名)	洗手间
どう	①		(副)	怎样
どうして	①		(副)	为什么
どうぞ	①		(副)	请
どうぶつ	②	[動物]	(名)	动物
どうも	①		(副)	很; 实在是...
とお	①	[十]	(名)	十个
とおい	②	[遠い]	(形)	远
とおか	②	[十日]	(名)	十日
とおく	③	[遠く]	(名)	远方, 远处
とおる	①	[通る]	(自)	通过
とかい	②	[都会]	(名)	都市, 大城市
とき	②	[時]	(名)	时候, 时间
ときどき	②		(副)	有时, 时常
とくい	②	[得意]	(形)	擅长, 拿手
とけい	②	[時計]	(名)	钟表
とける	②	[溶ける]	(自)	溶化, 融化
どこ	①		(名)	哪里
ところ	③	[所]	(名)	场所, 地方
とし	②	[年]	(名)	年岁
としょかん	②	[図書館]	(名)	图书馆

とちゅう	①	[途中]	(名)	半路上；中途
どちら / どっち	①		(名)	哪里；那个
とても	①		(副)	很，非常
どなた	①		(名)	哪位
となり	①	[隣]	(名)	旁边，邻居
どの	①		(连体)	哪个
とぶ	①	[飛ぶ]	(自)	飞，飞行
トマト	①		(名)	番茄
とまる	①	[止まる]	(自)	停止
とまる	①	[泊まる]	(自)	住宿
ともだち	①	[友達]	(名)	朋友
どようび	②	[土曜日]	(名)	星期六
とり	①	[鳥]	(名)	鸟
とる	①	[取る]	(他)	取，拿
どれ	①		(名)	哪个
どんな	①		(连体)	哪样的
な				
ない	①		(形)	没有
ナイフ	①		(名)	小刀，餐刀
なおす	②	[直す]	(他)	改正；修理
なか	①	[中]	(名)	里边；当中
ながい	②	[長い]	(名)	长的，长久
なかま	③	[仲間]	(名)	伙伴
ながれる	③	[流れる]	(自)	流动
なく	①	[泣く]	(自)	哭泣
なく	①	[鳴く]	(自)	鸣叫
なくなる	①	[無くなる]	(自)	丢失，消失
なぜ	①		(副)	为何
なつ	②	[夏]	(名)	夏天
ななつ	②	[七つ]	(名)	七个
なに / なん	①①	[何]	(名)	什么，哪个
なのか	①	[七日]	(名)	七日
なまえ	①	[名前]	(名)	名字，姓名
なみだ	①	[涙]	(名)	眼泪
ならう	②	[習う]	(他)	学习（技艺等）
ならぶ	①	[並ぶ]	(他)	并排
ならべる	①	[並べる]	(他)	摆，排列
なる	①	[成る]	(自)	成为，变成
なる	①	[鳴る]	(自)	鸣，响

に

に	①	[二]	(名)	二
におい	②		(名)	气味, (异味)
にぎやか	②		(形)	热闹
にく	②	[肉]	(名)	肉
にし	①	[西]	(名)	西
にち		[~日]	(名)	~日
にちようび	③	[日曜日]	(名)	星期日
につき	①	[日記]	(名)	日记
にほん	②	[日本]	(名)	日本
にもつ	①	[荷物]	(名)	行李; 负担
にゅうがく	①	[入学]	(名・自)	入学
ニュース	①		(名)	消息, 新闻
にわ	①	[庭]	(名)	院子
にん		[~人]	(名)	~人
にんぎょう	①	[人形]	(名)	偶人, 娃娃
にんげん	①	[人間]	(名)	人

ぬ

ぬぐ	①	[脱ぐ]	(他)	脱
----	---	--------	-----	---

ね

ねがう	②	[願う]	(他)	请求, 希望
ねこ	①	[猫]	(名)	猫
ねだん	①	[値段]	(名)	价格
ねつ	②	[熱]	(名)	(身体) 发热
ねむい	①	[眠い]	(形)	困
ねる	①	[寝る]	(自)	躺; 睡觉
ねん		[~年]	(名)	~年

の

ノート	①		(名)	笔记 (本)
のこる	②	[残る]	(自)	留, 剩下
のど	①		(名)	喉咙
のびる	②	[伸びる]	(自)	伸展
のぼる	①	[登る]	(自)	攀登
のぼる	①	[昇る]	(自)	上升
のむ	①	[飲む]	(他)	喝; 吃 (药)
のり	②		(名)	糰糊
のる	①	[乗る]	(自)	乘坐, 骑 (车)

は

は	①	[歯]	(名)	牙齿
は	②	[葉]	(名)	叶子
ばあい	②	[場合]	(名)	場合, 时候
はいる	①	[入る]	(自)	进, 入
はがき	②	[葉書]	(名)	明信片
はく	②		(他)	穿(鞋, 裤)
はこ	②	[箱]	(名)	箱子, 盒子
はこぶ	②	[運ぶ]	(他)	运送
はさみ	③		(名)	剪刀
はし	②	[橋]	(名)	桥梁
はし	①		(名)	筷子
はじまる	②	[始まる]	(自)	开始
はじめ	②	[始め]	(名)	开头
はじめて	②	[初めて]	(副)	初次; 才
はじめる	②	[始める]	(他)	开始
ばしょ	②	[場所]	(名)	地方, 场所
はしる	②	[走る]	(自)	跑
バス	①		(名)	公共汽车
はずかしい	④	[恥ずかしい]	(形)	害羞, 惭愧
パソコン	②		(名)	个人电脑
はたけ	②	[畑]	(名)	田地, 旱田
はたらく	②	[働く]	(自)	工作, 劳动; 起作用
はち	②	[八]	(名)	八
はつおん	②	[発音]	(名)	发音
はっきり	③		(副)	清楚, 明确
はな	②	[鼻]	(名)	鼻子
はな	②	[花]	(名)	花
はなし	③		(名)	(说的)话; 故事
はなす	②	[話す]	(他)	讲述, 交谈
バナナ	①		(名)	香蕉
はは	①	[母]	(名)	妈妈
はやい	②	[早い]	(形)	早
はやい	②	[速い]	(形)	快
はらう	②	[払う]	(他)	付钱
はる	②	[張る]	(他)	贴, 粘
はる	①	[春]	(名)	春天
はれる	②	[晴れる]	(自)	天晴
はん		[~半]	(后缀)	~半
ばん	②	[晩]	(名)	傍晚, 晚上
ばん	①	[番]	(名)	轮班

パン	①		(名)	面包
ばんぐみ	①	[番組]	(名)	(广播、电视) 节目
ばんごう	③	[番号]	(名)	号码
はんたい	①	[反对]	(名・自)	相反; 反对
はんぶん	③	[半分]	(名)	一半

ひ

ひ	①	[日]	(名)	太阳
ひ	①	[火]	(名)	火
ピアノ	①		(名)	钢琴
ひがし	①	[東]	(名)	东
ひかり	③	[光]	(名)	光线
ひき		[~匹]	(名)	~只, ~条
ひく	①	[引く]	(他)	拖, 拉; 查(词典)
ひくい	②	[低い]	(形)	低的, 矮的
ひこうき	②	[飛行機]	(名)	飞机
ひだり	①	[左]	(名)	左
びっくり	③		(副・自)	吃惊
ひと	①	[人]	(名)	人; 别人
ひとつ	②	[一つ]	(名)	一个
ひとり	②	[一人]	(名)	一个人
ひま	①	[暇]	(名・形)	空闲
ひゃく	②	[百]	(名)	一百
びょう		[~秒]	(名)	~秒
びょういん	①	[病院]	(名)	医院
びょうき	①	[病気]	(名)	疾病
ひらく	②	[開く]	(他)	开, 开创
ひる	②	[昼]	(名)	白天; 中午
ひろい	②	[広い]	(形)	宽广, 宽敞
ひろう	①	[拾う]	(他)	拾, 捡

ふ

ふかい	②	[深い]	(形)	深的
ふく	②	[服]	(名)	衣服
ふく	①	[吹く]	(自)	吹, 刮
ふく	①		(他)	擦
ふくる	③	[袋]	(名)	袋子
ぶた	①	[豚]	(名)	猪
ふたつ	③	[二つ]	(名)	两个
ふたり	③	[二人]	(名)	两个人
ふつう	①	[普通]	(名・副)	一般, 普通

ふつか	①	[二日]	(名)	二日
ふとい	②	[太い]	(形)	粗
ふね	①	[船]	(名)	船
ふべん	①	[不便]	(形)	不便
ふゆ	②	[冬]	(名)	冬天
ふる	①	[降る]	(自)	下 (雨、雪)
ふるい	②	[古い]	(形)	旧的, 古老的
ふる	②	[風呂]	(名)	洗澡间
ふん		[~分]	(名)	~分
ぶんか	①	[文化]	(名)	文化
ぶんしょう	①	[文章]	(名)	文章

へ

へいわ	①	[平和]	(名)	和平
ページ			(名)	~页
へた	②	[下手]	(形)	笨拙, 不高明
ベッド	①		(名)	床
へや	②	[部屋]	(名)	房间
ベル	①		(名)	铃
ペン	①		(名)	笔, 钢笔
べんきょう	①	[勉強]	(名・他)	学习, 用功
へんじ	③	[返事]	(名)	回答, 回信
べんとう	③	[弁当]	(名)	盒饭
べんり	①	[便利]	(形)	便利, 方便

ほ

ぼうし	①	[帽子]	(名)	帽子
ほうそう	①	[放送]	(名・他)	广播, 播送
ボールペン	①		(名)	圆珠笔
ほか	①	[外]	(名)	别的, 以外
ぼく	①		(名)	我 (男子自称)
ほし	①	[星]	(名)	星星
ほしい	②	[欲しい]	(形)	想要
ほそい	②	[細い]	(形)	细, 瘦小
ほとんど	②		(副)	几乎
ほん	①	[本]	(名)	书
ほん		[~本]	(名)	~根, ~条
ほんとう	①		(名・形)	真的, 的确

ま

まい		[毎~]	(前綴)	每~
----	--	--------	------	----

まい		[~枚]	(名)	~张, ~块, ~片
まいにち	①	[毎日]	(名)	每日
まえ	①	[前]	(名)	前面, 以前
まける	②	[負ける]	(自)	输, 败
まじめ	②		(形)	认真, 正派
まず	①		(副)	首先
また	②		(副)	又, 再, 也
まだ	①		(副)	还, 未, 尚
まち	②	[町]	(名)	城镇
まちがう	③	[間違う]	(自)	弄错
まつ	①	[待つ]	(他)	等候
まっすぐ	③		(副)	直, 笔直
まど	①	[窓]	(名)	窗子
まにあう	③	[間に合う]	(自)	来得及
まもる	②	[守る]	(他)	保护, 遵守
まるい	②	[丸い]	(形)	圆的
まん	①	[万]	(名)	一万
まんが	②	[漫画]	(名)	连环画, 漫画

み

みえる	②	[見える]	(自)	看见
みがく	②	[磨く]	(他)	刷(牙), 擦
みかん	①		(名)	柑橘
みぎ	②	[右]	(名)	右
みじかい	③	[短い]	(形)	短的, 短暂
みず	②	[水]	(名)	水
みずうみ	③	[湖]	(名)	湖泊
みせ	②	[店]	(名)	商店
みち	②	[道]	(名)	道路
みっか	②	[三日]	(名)	三日
みつつ	③	[三つ]	(名)	三个
みどり	①	[緑]	(名)	绿色
みなさん	②		(名)	大家, 各位
みなみ	②	[南]	(名)	南
みみ	②	[耳]	(名)	耳朵
みる	①	[見る]	(他)	看
ミルク	①		(名)	牛奶
みんな	③		(名・副)	大家, 全体

む

むいか	①	[六日]	(名)	六日
むかえる	①	[迎える]	(他)	迎接
むかし	①	[昔]	(名)	从前
むこう	②	[向こう]	(名)	对面, 那边
むし	①	[虫]	(名)	昆虫
むずかしい	④	[難しい]	(形)	困难
むすこ	①	[息子]	(名)	儿子
むすめ	③	[娘]	(名)	女儿
むつつ	③	[六つ]	(名)	六个
むら	②	[村]	(名)	村庄

め

め	①	[目]	(名)	眼睛
メートル			(名)	~米
めがね	①	[眼鏡]	(名)	眼镜
めずらしい	④	[珍しい]	(形)	希奇, 少有

も

もう	①		(副)	已经, 马上, 再
もくようび	③	[木曜日]	(名)	星期四
もつ	①	[持つ]	(他)	携带, 持有
もっと	①		(副)	更加
もと	①	[元]	(名)	原来
もどる	②	[戻る]	(自)	返回
もの	②	[物]	(名)	物品
もらう	①		(他)	收取, 得到
もり	①	[森]	(名)	森林
もんだい	①	[問題]	(名)	问题, 试题

や

や		[~屋]	(后缀)	~店
やおや	①	[八百屋]	(名)	蔬菜店
やきゅう	①	[野球]	(名)	棒球
やく	①	[約]	(副)	大约, 大体
やくそく	①	[約束]	(名・他)	约定, 约会
やさい	①	[野菜]	(名)	蔬菜
やさしい	①	[易しい]	(形)	容易
やさしい	①	[優しい]	(形)	和蔼, 温和
やすい	②	[安い]	(形)	便宜
やすい	②		(后缀)	容易…

やすみ	③	[休み]	(名)	休息, 休假
やすむ	②	[休む]	(自)	休息, 请假
やっつ	③	[八つ]	(名)	八个
やま	②	[山]	(名)	山
やめる	①	[止める]	(他)	停止, 取消
やる	①		(他)	干; 给 (别人)
やわらかい	④	[柔らかい]	(形)	柔软, 柔和

ゆ

ゆ	①	[湯]	(名)	开水, 热水
ゆうがた	①	[夕方]	(名)	傍晚
ゆうびんきょく	③	[郵便局]	(名)	邮局
ゆうべ	③		(名)	昨晚
ゆうめい	①	[有名]	(形)	有名
ゆき	②	[雪]	(名)	雪
ゆっくり	③		(副)	慢慢地
ゆび	②	[指]	(名)	指头
ゆめ	②	[夢]	(名)	梦; 理想

よ

ようか	①	[八日]	(名)	八日
よく	①		(副)	好好地; 常常
よこ	①	[横]	(名)	横; 旁边
よっか	①	[四日]	(名)	四日
よっつ	③	[四つ]	(名)	四个
よぶ	①	[呼ぶ]	(他)	叫, 称为
よむ	①	[読む]	(他)	读, 念, 阅读
よる	①	[夜]	(名)	夜晚
よろこぶ	③	[喜ぶ]	(自)	欢喜
よわい	②	[弱い]	(形)	弱, 不擅长

ら

らいねん	①	[来年]	(名)	明年
ラジオ	①		(名)	收音机

り

りょうり	①	[料理]	(名・他)	菜肴, 做菜
りょこう	①	[旅行]	(名・自)	旅行, 旅游

れ

れい	①	[例]	(名)	例子
----	---	-------	-----	----

れい	①②	[礼]	(名)	行礼；致谢
れきし	②	[歴史]	(名)	历史
れんしゅう	②	[練習]	(名・他)	练习
ろ				
ろうか	②	[廊下]	(名)	走廊，楼道
ろく	②	[六]	(名)	六
わ				
わかる	②	[分かる]	(自)	明白，懂
わかれる	③	[別れる]	(自)	离别，分手
わすれる	②	[忘れる]	(他)	忘记
わたし	②		(名)	我
わたす	②	[渡す]	(他)	交给，递给
わたる	②	[渡る]	(自)	渡（江河），过（马路）
わらう	②	[笑う]	(自)	笑
わるい	②	[悪い]	(形)	坏，不好

(二) 語彙附表

I 「こそあど」系列

分類	称	近称	中称	遠称	不定称
代 詞	事 物	これ①	それ①	あれ①	どれ①
	場 所	ここ①	そこ①	あそこ①	どこ①
	方 向	こちら① (こっち③)	そちら① (そっち③)	あちら① (あっち③)	どちら① (どっち①)
連 体 詞		この①	その①	あの①	どの①
		こんな①	そんな①	あんな①	どんな①
副 詞		こう①	そう①	ああ①	どう①

II 人称代名詞

自称 (第一人称)	対称 (第二人称)	他称(第三人称)			不定称 (疑問)
		近称	中称	遠称	
わたし① ぼく①	あなた②	このひと②	そのひと②	あのひと②	だれ①
		かれ① かのじょ①			どなた①

III 時間

表 1

~年	~月	~週	~日
一昨年 おとし②		先々週 せんせんしゅう①	おととい③
去年 きょねん①	先月 せんげつ①	先週 せんしゅう①	昨日 きのう②
今年 ことし①	今月 こんげつ①	今週 こんしゅう①	今日 きょう①
来年 らいねん①	来月 らいげつ①	来週 らいしゅう①	明日 あした③
再来年 さらいねん①	再来月 さらいげつ①	再来週 さらいしゅう①	あさって②

表2

～年	～月	～日	～時	～分	～秒
1年 いちねん②	1月 いちがつ④	1日 いちにち④ ついたち④	1時 いちじ①	1分 いっぷん①	1秒 いちびょう②
2年 にねん①	2月 にがつ③	2日 ふつか①	2時 にじ①	2分 にふん①	2秒 にびょう①
3年 さんねん①	3月 さんがつ①	3日 みっか①	3時 さんじ①	3分 さんぷん①	3秒 さんびょう①
4年 よねん①	4月 しがつ③	4日 よっか①	4時 よじ①	4分 よんぷん①	4秒 よんびょう①
5年 ごねん①	5月 ごがつ①	5日 いつか①	5時 ごじ①	5分 ごふん①	5秒 ごびょう①
6年 ろくねん②	6月 ろくがつ④	6日 むいか①	6時 ろくじ②	6分 ろっぷん①	6秒 ろくびょう②
7年 しちねん②	7月 しちがつ④	7日 なのか①	7時 しちじ②	7分 ななふん②	7秒 ななびょう②
8年 はちねん②	8月 はちがつ④	8日 ようか①	8時 はちじ②	8分 はっぷん①	8秒 はちびょう②
9年 きゅうねん①	9月 くがつ①	9日 ここのか①	9時 くじ①	9分 きゅうふん①	9秒 きゅうびょう①
10年 じゅうねん①	10月 じゅうがつ④	10日 とおか①	10時 じゅうじ①	10分 じゅうぷん①	10秒 じゅうびょう①
何年 なんねん①	何月 なんがつ①	何日 なんにち①	何時 なんじ①	何分 なんぷん①	何秒 なんびょう①

注:

「20日」は比較的特殊な読みで、「はつか①」と読む。「19日」は「じゅうくにち③」と読む。
「11月」と「12月」はそれぞれ「じゅういちがつ⑥」「じゅうにがつ⑥」と読む。

表3

～曜日		～週間	
月曜日 げつようび③	日曜日 にちようび③	1週間 いっしゅうかん③	7週間 ななしゅうかん③
火曜日 かようび②		2週間 にしゅうかん②	8週間 はっしゅうかん③
水曜日 すいようび③		3週間 さんしゅうかん③	9週間 きゅうしゅうかん③
木曜日 もくようび③		4週間 よんしゅうかん③	10週間 じゅうしゅうかん③
金曜日 きんようび③		5週間 ごしゅうかん②	
土曜日 どようび②	何曜日 なんようび③	6週間 ろくしゅうかん③	何週間 なんしゅうかん③

IV 基数詞

音読み	訓読み	“百、千、万、億”の音読み
一 いち②	一つ ひとつ②	百 ひゃく② 千 せん① 万 まん① 億 おく①
二 に①	二つ ふたつ③	
三 さん②	三つ みっつ③	
四 し①(よん①)	四つ よっつ③	
五 ご①	五つ いつつ②	
六 ろく②	六つ むっつ③	
七 しち②(なな①)	七つ ななつ②	
八 はち②	八つ やっつ③	
九 きゅう①/く①	九つ ここのつ②	
十 じゅう①	十 とお①	
	いくつ①	

V 量詞

表1

～円	～階	～回	～歳	～冊	～人	～台
1円 いちえん②	1階 いっかい①	1回 いっかい③	1歳 いっさい①	1冊 いっさつ④	1人 ひとり②	1台 いちだい②
2円 にえん②	2階 にかい①	2回 にかい②	2歳 にさい①	2冊 にさつ①	2人 ふたり③	2台 にだい①
3円 さんえん②	3階 さんがい①	3回 さんかい③	3歳 さんさい①	3冊 さんさつ①	3人 さんにん③	3台 さんだい①
4円 よえん①	4階 よんかい①	4回 よんかい①	4歳 よんさい①	4冊 よんさつ①	4人 よんにん②	4台 よんだい①
5円 ごえん①	5階 ごかい①	5回 ごかい②	5歳 ごさい①	5冊 ごさつ①	5人 ごにん②	5台 ごだい①
6円 ろくえん②	6階 ろっかい①	6回 ろっかい①	6歳 ろくさい②	6冊 ろくさつ④	6人 ろくにん②	6台 ろくだい②
7円 ななえん②	7階 ななかい①	7回 ななかい②	7歳 ななさい②	7冊 ななさつ②	7人 しちにん②	7台 ななだい②
8円 はちえん②	8階 はっかい①	8回 はちかい③	8歳 はっさい①	8冊 はっさつ④	8人 はちにん②	8台 はちだい②
9円 きゅうえん①	9階 きゅうかい①	9回 きゅうかい①	9歳 きゅうさい①	9冊 きゅうさつ①	9人 くにん②	9台 きゅうだい①
10円 じゅうえん②	10階 じゅうかい①	10回 じゅうかい③	10歳 じゅうさい①	10冊 じゅうさつ①	10人 じゅうにん①	10台 じゅうだい①
	何階 なんがい①	何回 なんかい①	何歳 なんさい①	何冊 なんさつ①	何人 なんにん①	何台 なんだい①

注: 「3階」と「何階」はそれぞれ「さんかい①」「なんかい①」と読んでもよい。

表2

～度	～匹	～本	～枚	～番目
1度 いちど③	1匹 いっぴき④	1本 いっほん①	1枚 いちまい②	1番目 いちばんめ⑤
2度 にど②	2匹 にひき①	2本 にほん①	2枚 にまい①	2番目 にばんめ④
3度 さんど①	3匹 さんびき①	3本 さんほん①	3枚 さんまい①	3番目 さんばんめ⑤
4度 よんど①	4匹 よんひき①	4本 よんほん①	4枚 よんまい①	4番目 よんばんめ⑤
5度 ごど②	5匹 ごひき①	5本 ごほん①	5枚 ごまい①	5番目 ごばんめ④
6度 ろくど②	6匹 ろっぴき④	6本 ろっほん①	6枚 ろくまい②	6番目 ろくばんめ⑤
7度 ななど②しちど②	7匹 ななひき②	7本 ななほん②	7枚 ななまい②	7番目 ななばんめ⑤
8度 はちど②	8匹 はっぴき④	8本 はっほん①	8枚 はちまい②	8番目 はちばんめ⑤
9度 きゅうど①	9匹 きゅうひき①	9本 きゅうほん①	9枚 きゅうまい①	9番目 きゅうばんめ⑤
10度 じゅうど①	10匹 じゅうひき④	10本 じゅうほん①	10枚 じゅうまい①	10番目 じゅうばんめ⑤
何度 なんど①	何匹 なんびき①	何本 なんほん①	何枚 なんまい①	何番目 なんばんめ⑤

(三) 日本語漢字表

説明:

1. 本表は中日両国語が共用している漢字の特徴を利用して編集したものである。目的は、初学者が中国語の漢字の読みから、日本語の漢字の読み方を検索し、また中日で字形が違う漢字を区別するための便宜を図ることである。
2. 本表は表1と表2から成り、初級中学段階の語彙表及び語彙附表に出てきた日本漢字511字の全てが含まれている。
3. 表1は中国語のピン音の順によって配列しており、【 】内は日本語と対応する中国語の漢字では字型が異なっていることを示している。字形が同じ中国語の漢字は特に示さなかった。
4. 片仮名は音読み、平仮名は訓読みを示しており、太字は送り仮名を示している。
5. 表2は特殊な読み方をする漢字熟語を、日本語の五十音順で配列している。

表 1

A	愛	【愛】	アイ	長	【長】	ながい
	安		やすい	場	【場】	ジョウ
	暗		くらい	車	【車】	ば
B	八		ハチ	成		くるま
	白		やつつ	乗	【乗】	セイ
	百		しろい	池		なる
	板	【板】	ヒャク	持		のる
	半		バン	遅	【遅】	いけ
	薄	【薄】	ハン	恥	【耻】	もつ
	本		うすい	齒	【齿】	おそい；おくれる
	鼻	【鼻】	ホン	赤		はずかしい
	比		はな	虫		は
	筆	【筆】	くらべる	出		あかい
	閉	【閉】	ヒツ	初		むし
	壁		しめる	除		シュツ
	弁	【辨】	かべ	川		でる；だす
	便		ベン	伝	【传】	はじめて
	变	【变】	ピン；ベン	船	【船】	ジ
	別	【别】	かえる；かわる	窓	【窗】	かわ
	氷	【冰】	わかれる	春		つたう；つたえる
	並	【并】	こおり	吹		ふね
	病		ならぶ；ならべる	辞		まど
	悲		ビョウ	次		はる
北		かなしい	村		ふく	
泊		きた	D		ジ	
不		きた	大		つぎ	
布		とまる	答		むら	
步	【步】	フ	達		ダイ；タイ	
怖		フ	打		おおきい	
部		あるく	待		こたえる	
C	財	【財】	こわい	袋	【达】	タツ
	菜		ブ	貸		うつ
	残	【残】	サイ	点		まつ
	冊	【册】	サイ	店		ふくろ
	側	【侧】	のこる	電	【电】	かす
	茶	【茶】	サツ	調	【调】	テン
			かわ(がわ)	町		みせ
			チャ			デン
					しらべる	
					まち	

冬		ふゆ
東	【东】	ひがし
動	【动】	ドウ
誕	【诞】	タン
当		トウ
		あたる
島	【岛】	しま
道		みち
得		トク
登		のぼる
低	【低】	ひくい
地		チ
弟		ダイ
		おとうと
第		ダイ
都		ト
読	【读】	よむ
度		ド
渡		わたす；わたる
短		みじかい
段		ダン
对	【对】	タイ
多		おおい
E		
悪	【恶】	わるい
耳		みみ
二		ニ
		ふたつ
F		
発	【发】	ハツ
髪	【发】	かみ
番		バン
反	【反】	ハン
返	【返】	ヘン
		かえす
飯	【饭】	ハン
放		ハウ
飛	【飞】	ヒ
		とぶ
分		フン；ブン
		わかる

風	【风】	フ
		かぜ
払	【佛】	はらう
服		フク
符		フ
父		ちち
付		つく；つける
負	【负】	まける

G

甘		あまい
感		かんじる
高		たかい
歌		うた；うたう
工		コウ
公		コウ
供		とも
古		ふるい
掛	【挂】	かける
関	【关】	カン
館	【馆】	カン
光		ひかり
広	【广】	ひろい
帰	【归】	かえる
国		コク
		くに
菓	【果】	カ
過	【过】	すぎる

H

寒		さむい
漢	【汉】	カン
汗		あせ
海	【海】	うみ
好		すき
号	【号】	ゴウ
合		あう
何		なに
和		わ
荷		に
黒	【黑】	コク
		くろい
横		よこ

呼 ぶ
湖 みずうみ
花 【花】 はな
化 【化】 カ
話 【話】 ワ
はなし ; はなす
画 【画】 ガ
黄 き
壊 【坏】 こわれる
回 カイ
会 カイ
あう
絵 【绘】 え
厚 あつい
後 【后】 ゴ
あと ; うしろ
活 かつ
火 ひ

J

機 【机】 キ
集 つくえ
記 あつまる ; あつめる
季 【记】 キ
績 キ
家 【绩】 セキ
仮 いえ ; うち
固 【假】 カ
間 かたい
間 【间】 カン ; ケン
あいだ ; ま
見 【见】 みえる ; みる
建 たてる
降 ふる
教 キョウ
おしえる
皆 みな
階 【阶】 カイ
節 【节】 セツ
介 カイ
界 カイ
借 かりる
今 【今】 コン

金 いま
キン
かね
近 ちかい
景 ケ
静 しずか
鏡 【鏡】 かがみ
九 キュウ ; ク
局 このつ
決 キョク
局 【决】 ケツ
きまる ; きめる
覚 【觉】 おぼえる
君 クン

K

開 【开】 あく ; あける ; ひらく
考 かんがえる
科 カ
客 キャク
空 【空】 クウ
そら
口 くち
苦 くるしい

L

来 ライ
くる
頼 【赖】 たのむ
廊 ロウ
涼 【凉】 すずしい
楽 【乐】 たのしい
冷 【冷】 つめたい
力 ちから
立 たつ
礼 レイ
戻 【戻】 もどる
利 リ
例 レイ
たとえる
歴 【历】 レキ
練 【练】 レン

料		リョウ
涙	【泪】	なみだ
隣	【邻】	となり
流		ながれる
六		ロク
		むつつ
卯		たまご
呂	【吕】	ロ
旅	【旅】	リョ
M		
買	【买】	かう
売	【卖】	うる
漫		マン
忙		いそがしい
猫		ねこ
帽	【帽】	ボウ
眠		ねむい
勉	【勉】	ベン
秒	【秒】	ビョウ
皿		さら
名		メイ
		な
明		あかるい
鳴	【鸣】	なく ; なる
枚		マイ
每	【每】	マイ
美		うつくしい
妹		いもうと
夢	【梦】	ゆめ
磨		みがく
魔	【魔】	マ
母		はは
木		き
目		め
米		こめ
N		
男		おとこ
南		みなみ
難	【难】	むずかしい
年		ネン
		とし

娘		むすめ
鳥	【鸟】	とり
牛		うし
濃	【浓】	こい
怒		おこる
暖		あたたかい
女		おんな
P		
匹		ヒキ
疲		つかれる
平		ヘイ
普		フ
Q		
七		シチ
		なな ; ななつ
起		おきる
気	【气】	キ
汽		キ
泣		なく
千		セン
鉛	【铅】	エン
前		ゼン
		まえ
浅	【浅】	あさい
欠		ケツ
強	【强】	キョウ
		つよい
橋	【桥】	はし
切	【切】	セツ
		きる
親	【亲】	シン
		おや ; したい
寝		ねる
青		あおい
軽	【轻】	かるい
晴		はれる
秋		あき
球		キユウ
取		とる
趣		シュ
全		ゼン

	犬		いぬ
R			
	然熱	【熱】	ゼン ネツ あつい
	人		ジン；ニン ひと
	日		ニチ ひ
	溶柔肉入	【入】	とける やわらかい ニク ニュウ いれる；はいる よわい
S			
	三		サン みっつ
	傘掃色	【傘】 【掃】	かさ ソウ シキ いろ
	森砂山傷上少紹捨社伸深生	【沙】 【伤】 【少】 【绍】 【舍】 【深】	もり サ やま きず うえ；うわ；あげる すくない；すこし ショウ すてる シャ のびる ふかい ショウ；セイ うまれる
	声昇勝失十	【升】 【胜】	こえ のぼる かつ シツ ジュウ とお

	石拾食		いし ひろう シヨク たべる
	時	【時】	ジ とき
	史使始世仕事		シ つかう はじまる；はじめる セ シ ジ こと
	室試手守首受授書	【試】 【書】	シツ シ て まもる くび うける ジュ シヨ かく あつい かず；かぞえる ソク スイ みず おもう シ よん；よっつ ソウ おくる
	暑数束水	【暑】 【数】 【束】 【水】	さがす はやい シュク サイ シヨ ところ
	思四送		シ 四 送
	搜速宿歳所	【搜】 【岁】 【所】	さがす はやい シュク サイ シヨ ところ
T			
	台太曇	【曇】	ダイ ふとい くもる

湯	【湯】	ゆ
堂		ドウ
糖		トウ
題	【題】	ダイ
体		からだ
天	【天】	テン
庭		にわ
通		ツウ
		とおる
同		おなじ
痛		いたい
頭	【頭】	あたま
図	【図】	ズ
徒		ト
途		ト
豚		ぶた
脱		ぬぐ
		まるい
丸	【頑】	ガン
頑	【晩】	バン
晩		マン
万	【外】	ガイ
外		そと；ほか
		わすれる
忘		あぶない
危	【违】	ちがう
違		ミ
味		あじ
		ブン
文	【聞】	きく；きこえる
聞		ブン
問	【問】	モン
汚	【汚】	きたない
屋		や
無	【无】	なくなる
午		ゴ
五		ゴ
		いつつ
物		ブツ；モツ
		もの

W

X		
	夕	ゆう
	西	にし
	吸	すう
	昔	むかし
	績	セキ
	習	【習】 シュウ
		ならう
	洗	セン
		あらう
	喜	よろこぶ
	細	【細】 ほそい
	狭	せまい
	暇	ひま
	下	した
	夏	なつ
	先	セン
		さき
	嫌	いや；きらう
	箱	はこ
	向	むこう
	相	あい
	消	けす
	小	ちいさい
	笑	わらう
	咲	【笑】 さく
	校	コウ
	写	【写】 シャ
	邪	【邪】 ジャ
	心	こころ
	辛	からい
	新	シン
		あたらしい
	星	ほし
	行	いく
	形	ギョウ
		かたち
	兄	キョウ
		あに
	休	やすむ
	続	【续】 つづく；つづける
	玄	ゲン
	選	【选】 えらぶ

Y

靴学雪	【靴】	くつ ガク ゆき
言塩厳顔驗薬曜野夜葉業要一	【言】	こと;いう
	【盐】	しお
	【严】	きびしい
	【顔】	かお
	【驗】	ケン
	【药】	くすり
	【曜】	ヨウ
		ヤ
		よる
	【叶】	は
	【业】	ギョウ
		いる
		イチ
		ひとつ
		イ
		やさしい
医易駅意億音	【驿】	えき
		イ
	【亿】	オク
		オン
		おと
		ひく
引飲桜迎映優郵遊友有右誘泳	【饮】	のむ
	【桜】	さくら
		むかえる
		エイ
	【优】	やさしい
	【邮】	ユウ
	【游】	あそぶ
		とも
		ユウ
		みぎ
	【诱】	さそう
		エイ
		およぐ
		おどる
踊魚雨	【鱼】	さかな
		あめ

語育欲元	【语】	ゴ いく ほしい ゲン もと
円園遠院願約月	【圆】	エン
	【园】	エン
	【远】	とおい
		イン
	【愿】	ねがう
	【约】	ヤク
		ガツ; ゲツ
		つき
楽雲運	【乐】	ガク
	【云】	くも
	【运】	ウン
		はこぶ
Z		
雑賛早姉張章丈朝者真珍正	【杂】	ザツ
	【赞】	サン
		はやい
	【姊】	あね
	【张】	はる
		ショウ
		ジョウ
		あさ
		シャ
	【真】	シン
		めずらしい
		ただしい
		ショウ
		しらせる; する
知直値	【直】	なおす
	【值】	ね
植止紙指置誌質	【植】	うえる
		とまる; やめる
	【紙】	かみ
		ゆび; さす
	【置】	おく
	【志】	シ
	【质】	シツ

中		チュウ
		なか
終	【終】	おわる
仲		なか
重		おもい
週	【周】	シュウ
昼		ひる
住		すむ
助		たすける
転	【转】	テン
着	【着】	きる；つく
濯	【濯】	タク
子		シ
		こ
自		ジ
字		ジ
走		はしる
足		あし
卒		ソツ
族		ゾク
組	【组】	くみ
左		ひだり
作		つくる
座		すわる

日造漢字^{訳注3}

込	こむ
畑	はたけ
働	はたらく

^{訳注3} 日本の国字

表 2

特殊な読み方をする漢字

漢 字	発 音	漢 字	発音
明日	あした	上手	じょうず
田舎	いなか	時計	とけい
お母さん	おかあさん	二十歳	はたち
お父さん	おとうさん	二十日	はつか
一昨日	おととい	一人	ひとり
一昨年	おととし	二人	ふたり
大人	おとな	下手	へた
お兄さん	おにいさん	部屋	へや
お姉さん	おねえさん	土産	みやげ
風邪	かぜ	息子	むすこ
今日	きょう	眼鏡	めがね
果物	くだもの	八百屋	やおや
今朝	けさ		

五、文法項目

説明: 本項目で使用している記号と学校文法との対応関係は次の通りである。

V₁ = 五段活用動詞

A₁ = 形容詞

V₂ = 上・下一段活用動詞

A₂ = 形容動詞を示している。

V₃ = 力行変格活用動詞とサ行変格活用動詞

(一) 品詞

名詞 [N, 体言] 動詞 [V (V₁, V₂, V₃), 用言] 形容詞 [A (A₁, A₂), 用言] 副詞、連体詞、接続詞、感嘆詞、助詞

(二) 活用

用言の基本的な活用形式

(三) 文の分類

平叙文、疑問文、命令文、感嘆文

(四) 文法細目

- V う [意志] [提案]
- V うと思う [意志]
- か [疑問] [選択]
- か [未決定]
- が [主体] [客体]
- が [転換] [単純接続]
- から [空間的起点] [時間的起点]
- から [原因]
- くらい / ぐらい [概数]
- けれども [転換]
- こと [名詞化]
- しか [数量の少なさを強調]
- ずつ [等量配分]
- そうだ [伝聞]
- V / A た [過去]
- N だ [判断]
- V たい [願望]
- V たがる [願望]
- だけ [限定]
- V / A たり / だり [並列]
- V / A / N だろう [推測]
- V て / で [前後の順序] [並列] [休止] [原因] [方法]
- A て / で [並列] [原因] [休止]
- で [動作の場所] [手段] [材料] [原因] [基準]
- V てある [動作の結果の継続]
- V ていく [近くから遠くへの移動]
- V ている [進行] [継続]
- V てから [前後の順序]
- V てください [請求]
- V てくる [遠くから近くへ移動]
- と [相互に動作を行う対象] [同じ動作に参加するもの] [内容]
- と [並列]
- V / A と [条件]
- と思う [意見] [判断]
- V / A ない [否定]

Vながら [同時]
Vなさい [命令]
など [例示]
V/A/Nなら [仮定]
に [存在している場所][到達地点][移動の目的][時間][対象][変化の結果][基準]
[比例の基準]
NにNがある/いる [存在]
ね [相手の賛同を求める][確認][感嘆]
の [所有][所属][主体][客体][同格]
の [名詞化]
V/Aので [原因]
は [主題][対比]
V/Aば [仮定]
NはNにある/いる [所在]
へ [方向]
ほど [概数][比較の基準]
まで [空間的終点][時間的終点][範囲の限界]
も [同類][例示][数量の多さを強調]
や [例示して並列]
よ [主張、相手の注意を促す]
より [比較]
わ [(穏やかな口調の)主張]
を [客体][通過した場所][離れた地点]